

第三回館山市議定会例會會議錄

(第三号)

第三回館山市議會定例会會議錄（第三号）目次

日	時	三
場	所	三
出席議員		三
欠席議員		四
出席説明員		四
出席事務局職員		五
議事日程		五
開議		六
議案の上程（認定第一号ノ認定第七号）		六
質疑応答		六
動議		三一
決算審査特別委員會の設置・委員の選任・付託		三一
議案の上程（報告第四号）		三三
質疑応答		三三
議案の上程（議案第六十八号）		三六
質疑応答		三七
委員會付託の省略		五〇

採決	五〇
議案の上程（議案第六十九号）	五〇
委員会付託の省略	五〇
採決	五一
議案の上程（議案第七十号）	五一
質疑応答	五一
委員会付託の省略	五六
採決	五六
議案の上程（議案第七十一号、議案第七十二号）	五六
質疑応答	五七
委員会付託の省略	五九
採決	五九
日程の追加	五九
議案の上程（議案第七十三号）	六〇
議案の内容説明	六〇
延会	六〇
本日の会議に付した事件	六一

第三回館山市議定会定例会會議錄（第三号）

昭和四十六年九月招集

一、昭和四十六年九月二十一日（火曜日）午前十時

一、館山市議定会本會議場

一、出席議員 二十七名

二	二	二	一	一	一	一	九	七	五	三	一
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番
安	田	君	宮	和	五	山	辻	渡	近	流	吉
沢	村	塚	野	田	十	本	田	辺	藤	山	田
徳	源	喜	敏	一	嵐			昭	好	源	勇
順	治	三	朗	郎	昇	昇	実	夫	雄	次	郎

二	二	二	一	一	一	一	一	〇	八	六	四	二
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番
飯	西	鈴	島	辻	伊	藤	渡	石	栗	鈴	林	
田	村	木	野	井	賀	田	辺	井	原	木		
義	真	市	茂	謹	多	益	軍	武	一			
男	次	蔵	郎	爾	朗	治	郎	敏	雄	稔	豊	

二番	望月照正	二番	田中祿郎
三番	遠山ヨネ子	二番	菊井敏博
一、欠席議員三名	安西益男	二番	
一、八番	秋山六三郎		
二、九番			
一、出席説明員			
市長	本間	助役	畠山博
収入役	高木哲三	秘書課長	太田博
人事課長	小沢正治	企画課長	伊藤幸太
庶務課長	小倉澄男	財政課長	長谷川良
市民課長	佐野甲子郎	稅務課長	越路良
收納課長	横井	商工觀光課長	鈴木
農産課長	石井	水産課長	谷貝茂
保健課長	綱島憲	衛生課長	牧野喜
水道課長	大嶋重	土木課長	飯田治
建築課長	池田春雄	交通課長	山口
市民センター館長	羽山房雄	国体室長	小宮利
福祉事務所長	齊藤武男	消防課長	星野清之
消防本部次長	岩田	教育委員會長	高木
教育委員會長	汐崎政光	学校教育委員會長	吉田隆夫

教育委員
體育課長
選舉管理委員會
書記長
農業委員會
事務局局長

教育委員會
社會教育課長
監查事務局局長
小官義夫
榎本繁

一、出席事務局職員

事務局局長

高梨清一

事務局局長補佐
高尾豐

書記長

兵藤恭一

書記
錦織睦子

書記

渡辺弘

書記
川上義雄

議事日程(第三号)

昭和四十六年九月二十一日午前十時開議

認定第一号 昭和四十五年度館山市一般會計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十五年度館山市国民健康保険特別會計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十五年度館山市簡易水道事業特別會計歳入歳出決算の認定について

日程第一 認定第四号 昭和四十五年度館山市と畜場特別會計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十五年度館山市休養施設特別會計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十五年度館山市ユースホテル特別會計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十五年度館山市西部簡易水道事業特別會計歳入歳出決算の認定について

日程第二 報告第四号 安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出について

日程第三 議案第六十八号 安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部を改正する規約の制定について

日程第四 議案第六十九号 字の区域及び名称の変更について

日程第五 議案第七十号 昭和四十六年度館山市一般会計補正予算(第三号)

日程第

六

議案第七十一号 昭和四十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第二号)
議案第七十二号 昭和四十六年度館山市休養施設特別会計補正予算(第一号)

開

議

午前十時一分

開

議

○議長 (吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十一名、これより第三回市議会定例会第三日の会議を開会いたします。本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。この際申し上げます。本日の議事案件の説明は先日の会議のうちに終っておりまして、本日は直ちに質疑より行ないます。

議案の上程

○議長 (吉田勇治郎君) 日程第一、認定第一号乃至第七号昭和四十五年度一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたします。

認定第一号 昭和四十五年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十五年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十五年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十五年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十五年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十五年度館山市ユースホテル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十五年度館山市西部簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

質疑応答

○ 議長 (吉田勇治郎)

直ちに質疑に移ります。なお、質疑のおりページをお示し願いたいと思います。

○ 九番 (辻田 実君) いろいろございますけれども、特に許していただきまして六点にしほりまして御質問申し上げます。

まず第一点、四〇ページ十四目諸費の中におきまして、八節報償費の中に入隊者記念品代千四百五十円というのがございます。これについて関連して質問を申し上げたいと思うわけでございますけれども、昨年のごとでございますけれども、私は大工さんの二、三の人から話を聞いたわけでございますけれども、その中において十七、八歳ですが、非常に若い人に対して本間市長の名前におきまして、自衛隊に勧誘の手紙を送られたそうでございます。そのことにつきましてやっと中卒の職人を確保したのに、給料がいいとかいうパンフレットとともにくれたものでどうこうということで若干困ったそうでございますけれども、その点についてはどのくらいの範囲について出されたものか。そういう中小企業特に最近少ないといわれておるところの職人、技術者こういう人に対して調査もなく無差別的に出されたのではないかという懸念がするわけでございますけれども、その点については事実なのかどうか、どの範囲なのか、そういう話をその席上二、三の人からそういう手紙がきたということを伺ったわけでございますけれども、この入隊記念品代千四百五十円非常に少ないわけでございます。当初予算はもう少し多かったわけでございますが、就労している人についてそういう人にいったということ、ケースは一件にしても非常に憂えることである。市長がかねがね主張されておる中小企業の労働者の確保という面から非常に逆行いたしますので、この点について内容をお聞かせいただきたいというふうに考えております。

二番目に、五三ページ八節報償費の中に青少年体育大会参加記念品購入費、同じく講師謝礼金で十八万二千九百七十円並びに十五万六千円というのが補正されて、当初五万であったものが三倍強に補正されておるので、私は補正当時わかりませんけれども、この内容はどのようなものであるか、時に青少年体育大会ということでございますから、本来ならばこの種の予算科目というのは教育委員会の体育費の中に含まれる性質のものであると思うがこの点について体育課と

の調整はどうであるか。特に青少年体育大会ということでございまして、私もスポーツ少年団の役員をやっておりますけれども、これらのものについては何ら関知しなかったわけでございますけれども、どのような形式でやられたものか。この点についてお伺いしたいと思います。

これに関連しまして、五四ページの十九節負担金補助及び交付金のスポーツグループ育成用具購入補助金三十万あるわけでございます。この交付はどういう形でやられておるのか。これは長年にわたりまして交付されているわけでございますけれども、その管理状況そうして公費によって交付された対象のグループの活動状況そのものはどのように変化して、どのような役割を果しているかという点について前項と合わせて御答弁のほどをお願いしたいと思います。

三番目に、六六ページ十九節負担金におきましてドジョウ養殖事業補助金五十八万円が支出されておるわけでございますけれども、いろいろと本間市長の特別な施策の一つであるようにうかがわれますけれども、その後の事業経過並びに内容については少し詳しくお伺いしたい。この点に対してはいろいろな意見、批判あるわけでございますけれども、それらについては私は非常に広い範囲から聞くので、市当局におかれましてはどのような見解を持っておるか。私はそうした批判とか周囲の意見にわずらわされることのないように議員としてその実態を把握しておきたいということでございますから、この事業の進捗状況についてはどのように進んでおるか。その内容と進捗状況についてお答えをいただきます。

次に、七三ページ二目の十九節負担金補助及び交付金でございます。これは補正予算で組まれたと思っておりますけれども、県中小企業会館建設補助金三十四万九千四百円が支出されております。この点につきましては千葉県労働者福祉協会より県の市長会を通じて館山市になにかの交付依頼が時期を同じくして依頼されておったわけでございますけれども、そちらのほうにつきましては安房地区にも多くの勤労者がおるわけでございますけれども、その福祉センター会館の建設については補助金が交付されなかったようでございます。県市二十市にみまるといふ市の中でまだ全く市長会のほうを通じてこの補助がなされていないのは館山市ぐらいのものであるということ聞いております。ほとんどの市におきましては

交付されておるわけでございますけれども、県の中小企業会館というのはどのような建物でもってどのようなふうになっておるのか、お伺いしたいわけでございます。そうして、勤労者の会館建設については補正予算は組めないけれども、県の中小企業会館建設につきましては、このようにして補助金を組んで納入しなければならなかった理由について、現在の法律上労使対等とかいふことをいっておりますけれども、これらについて勤労者の立場に立って見れば若干不信の念を抱かれるようになります。一方においては出す。一方は出さないということについて合わせてそこらへんの趣旨についてお答え願いたいと思います。

五番目、八九ページ十三節委託料でございますけれども、三万七千八百八十八円あるわけでございます。このほかにも市民センターをはじめ電気保安業務委託料というのが三つですか、四つあるわけでございますけれども、特にこれとの関連について御質問申し上げたいと思うんですが、先般温水プールにおきますところの事故が特に保安業務については嚴重を期さなければならぬというふうに考えておるわけでございますけれども、市民センターそれから老人福祉センターさらに学校に一つか、二つあると思いますが、これらの委託業務先ですが、どこにどういう形で契約ですか、責任と範囲内において委託をされておるのか。委託内容についてこの際厳密にやって参って電気保安上事故が起きた場合の責任の所在とか、電気保安業務の検査等があると思うけれども、それらは法的というところとむずかしくなりますけれども、その内容について明らかにしてもらいたい。それについて一連の電気保安業務の全貌が明らかになるのではないかとというふうに思われますのでこれをお伺いしたいわけでございます。

それとともに、九一ページ十五節工事請負費の中の北条小学校の一億九千二百万円並びに一〇二ページにありますところの温水プールの建設工事の請負がなされておるわけでございます。温水プールにつきましては一〇二ページの十七款公有財産購入費として九千八百六十万五千八百八十円ですか、あるわけでございますけれども、先般の台風におきまして非常にりっぱな近代的な建築でありながらあんがいもろかった。新聞紙上等において九重、館野の老朽校舎が支障がないのにこれらのものについてかなり被害が出たということについてはいろいろと設計上または工事上のいろいろな問

題があるんじゃないかというふうなことが新聞に出ただけにいろんなところからそういうことを耳にするわけでございますけれども、その点についてはどうか。特に北条小学校におきましては、建設過程についてお聞きしたいわけでございますけれども、北条小学校の設計等につきましては、名古屋大学の春日井小学校の先生に頼んだわけでございますけれども、設計が渡されてから北条小学校と同じ設計によって建てられた愛知県の春日井小学校の建築等がまわって地元の業者が入札に先だつてそれらを見た場合に、かなり欠陥的な部分があると。将来こういう事業を請け負った場合には、いろいろ今回のような事故、構造上のミスが出てくる危険性がある。春日井小学校においては夏の暑さ、冬の寒さというものが設計上の決定的なミスだということが工事着工前にすでに地元の業者によってキヤッチされておったということでございますが、そういうことは施行の市の側、教育委員会の側はどのような見解を持っておるのか。そのような関連において両戸がこわれたということだけで済まされるのかどうか。そこらへんについて関連いたしましたして御答弁のほどをお願いいたします。

最後に、六番目といたしまして、九七ページ十九節負担金のPTAの助成金三百二万円並びにPTA連絡協議会助成金十五万円があるわけでございますけれども、この交付によるところのその後の経過ですがどうであったか。若干PTA会費が安くなったという面についてはいいけれども、PTAの会の運営上いろいろ不便をきたす面もあるというようにいろいろな意見が出されておるわけでございます。それらについてこの助成効果についてお伺いしたいわけでございます。特に助成効果の中において私はPTAの運営、PTAの自主性この二点についてはどうなのか。ここらへんについて今市が把握している段階においての中間的なものでけっこうでございますから、見解を聞かしていただければ今後この種の助成金についての今後の運用、来年度の予算というものについてもいろいろ考慮する面があると考えられますので、この点について御説明いただきたい。以上、他にたくさんありますけれども、ほかの人も質問あると思いますので私は以上六項目につきまして御質問申し上げたいと思いますので、よろしく御答弁のほどをお願いいたします。

○ 市民課長 (佐野甲子郎君) 四〇ページの入隊者の記念品代につきましてお答えいたします。現在入隊者にはシャ

一、ペンシル一本を贈呈いたしております。

次に、案内書の送付の範囲でございますが、辻田議員さん御指摘の点は十分承知いたしましたして会社、事業所、商店等に勤務している方を一応除きまして現在無職でおられる若い方に通知したわけでございます。しかしその中に確かに二、三調査誤まりでつとめておられる方にいったケースもございまして、事業主に丁寧にお願いして御了解いただいたわけでございます。

○ 福祉事務所長 (齊藤武男君)

五三ページの八節報償費の關係につきましてお答え申し上げます。この關係につきましては、十四年に三十九年のいわゆる体力づくりの指定都市といたしまして館山市が指定を受けたわけでございますが、この段階で年間十七万円の補助金をいただいております。その中でこういうものを措置したわけでございますが、この記念品といたしましては四十五年度におきまして館野地区のつり大会、豊房地区の部落ぐるみの水泳大会、同じく豊房地区でございますけれども球技大会、それから青年館バレー、卓球大会というようになものに使用させていただきます。

その次の講師の審判の謝礼でございますが、これは三回目になるわけでございますけれども、青年館が二十館現在までありますけれども、この青年館の親善バレー、卓球大会にあたりましてその審判及びコートの謝礼といたしまして支出しておるものでございますが、そのほかにいろいろ青年館をよくする座談会というようにすることで、せっかく青年館をつくりましてもあまり有効的な利用がされないというように面もございしますので、地区の青年館長さんを中心としまして青年館を有効に使おうではないかというような關係のものでございます。

次の五四ページのスポーツクラブの關係でございますけれども、これは四十五年度におきましては三チーム助成いたしてございます。その一つに北条ソフトクラブでございます。責任者が渡辺正美でございます。この關係につきましては野球用具一式のものを十万円で購入しておるわけでございますけれども、十分の五いわゆる五万円が県補助、五万円が市負担の割合になっております。二つ目に早起き野球クラブでございます。これも非常に盛んに実施されておるわけ

でございますが、この関係につきましては会長、責任者が本間昭二でございます。用具の関係につきましてはボックスそれからベース、審判用の関係そういうようなものを含めまして十万助成しておるわけでございます。

それから、三番目にふるさとを離れて館山で働いております青年、例年二月にこの激励会をやっておるわけでございますが、それがようやく実りまして、やしのみグループというものが今回結成されたわけでございます。大体八十名中四十名が参加していただいております。内容につきましては、お茶の道具、お華、図書というようなものでございます。責任者は半沢みやと申します。それぞれの責任者によりまして、この用具保管というものをやっていたいただいております。でございます。

○ 農産課長 (石井 謙君) 三番目の六六ページドジョウ養殖事業につきましてお答え申し上げます。

これは米作転換の一環といたしまして湿田にドジョウの養殖をいたしまして、経営の安定をはかるといふものでございますが、組合員は三十一名ございまして、これは農協にお願いいたしましたして農協がバックアップしておるわけでございますが、この事業はほとんど湿田の周囲のスレート板とかあるいはけいはん板等を使ひまして、ドジョウの逃亡を防ぐために要する資材費の助成、それから稚魚に要する助成をいたしましたわけでございますが、実際につきましては総額にいたしまして九十七万一千余円、それから種苗費が四十三万四千余円でございますが、それに対して約四〇％の助成を行なっておりますが、稚魚は埼玉県に加須市からと千葉県の小見川町からこれを導入しております。大体一キロ当たり四百円程度で入荷しておるわけでございますが、これによって各養殖者がそれを分けまして養殖を行ないまして、大体第一回が五月、第二回が六月に参っておりますが、昨年度ドジョウの出荷をいたしましたのが東京の三和淡水魚でもって購入しようということで一キロ当たり七百五十円で出荷してございます。二回目につきましてはその量があまりとまりませんために木更津に出荷してございますが、これは一キロ当たり六百円程度で売っております。昨年度はあとから参りました稚魚が非常に小さくてその年に出荷ができなかったという現況でございます。

今年度におきましては、四十五年度と同じように一、〇〇〇キロを目標に稚魚を入れる計画を持っておりましたが、

非常に今年は雨が降らないために稚魚が取れなかったということで再三農協から稚魚の業者に対していろいろとお願い申し上げたわけでございますが、この十日になりましたこの稚魚がようやく入ったような状況でございます。なお本年度は各町村でドジョウ養殖を盛んにやってきましたためにその関係もあり、また非常に雨が降らなかったといううな関係があつてなかなか稚魚の入荷がむずかしかつたわけでございますが、これは国でも認めております米作転換の奨励事業の關係上、非常に有利性があるというふうに私も考えておりますので、将来これをのばしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○ 商工観光課長（鈴木 力君） 七三ページ商工業振興費の十九節負担金補助及び交付金のうち県中小企業会館建設補助金と、それから県の勤労福祉センター建設補助金との関連につきまして御説明申し上げます。

県の中小企業会館建設補助金につきましては、昨年の三月県下中小企業の指導センターといたしまして、会館が千葉市の千葉港四番地に建設されたわけでございますが、これは千葉県の中小企業団体中央会あるいは千葉県商工会連合会その他十三団体が入館しておるわけでございまして、千葉県下の中小企業の指導センターというような役割をいたしております。この補助金につきましては、県下の市長会を通じて支出の要請がなされまして三十四万九千円を支出納付いたしましたわけでございます。

なお、千葉県労働者福祉センター建設補助金につきましては、やはり市長会を通じての補助金の交付の要請がなされておりますが、これにつきましては四十六年度におきまして当初予算におきまして補助金の要請のございました百四十三万四千円の二分の一相当額の七十一万七千円を当初予算に計上してございます。なお残りの額につきましては来年度四十七年度予算でもって支出するというような考え方に立ちまして補助金を出す考えでおるわけでございます。

○ 市長（本間 譲君） ただいま御質問の中小企業会館ですが、勤労者会館等につきましては、私はもともとからあまりやりたくない気持を持っておるんです。それはなぜかと申しますと、勤労者の福祉会館ですかを千葉へ百四十万も出して立てるのならば、館山をもっと充実したほうがいいのではないかと。議員の島野さんにもちょっと申し上げたんですが

千葉市に持っていても何にもならない。この土地のためにやることは百万でも百五十万でも話によればいいと思う。千葉くんだりまでいってもしようがない。こっちはそこまで手がまわらないと考えておるんですが、しかし半額は今年度の予算に計上してあるはずですよ。あとは来年度という考え方でありますが、この半額も出すならば、出さないでまた方の勤労者会館のほうに増設するのならそっちのほうが本当だろうと思う。千葉くんだりまで応援する必要はないと思う。今、問題になっておるのは、教育会館が八十何万きております。大体市長会なんか通じてそういうことを相談せずして出せというのは不都合だ。必要があれば千葉付近の人がやればいい。館山市のような速くの人がない金を出すということは現時点においては適当でないと思います。

負担金やなんかにつきましても、本年からは相当削減というんですか、思い切ってやったわけですが、これはだれかがやらなければならぬと思いますが館山土木協会というのができていますね。これは約三十九年間。農業改良何とかの後援会が三十五万くらい、保健所の後援会みたいのが七万、そういうふうにして血税をそういうふうにもってやってやるということは私は納得できない。これは天皇制時代の役人の住民にみつがせるといふふうに私は解釈する。知事にもこの間話した。こういうものをやっておるけれども、知事さん知っておるか。知っておっても知らないというでしょうけれども、とにかく本当は土木出張所にしても保健所にしても農業改良事務所にしても知事が県民にサービス機関として出しておるのではないかと。その上に百万も百五十万も予算を組ましておいてそうして市町村から税金からそれを負担させるというのはもっともよくないことだ。あんたのほうで必要ならば知事さん予算を組んだらいいではないかということをお願いすることがあるんですが、とにかくそういうことは私はまだまだ幾つも県の関係でやっておりますよ。あるいはしっぺがえしをくうかもしれないませんが、そんなことをいっておったんではいつになっても膨張するわけです。百七十万くらいあるでしょう。こっちはたった一万五千円しか組んでない。一回行って三千円かかれれば五回分。保健所も一万くらいです。農業改良事務所のほうも一万五千円くらいです。そういうふうにしなければ、とにかくいえばやろうという、そういうってはわるいけれども、自分の金なら出しっこない。しかし議会さえ通ればよそでやっておればおそ

らくとおるでしょう。しかしそういうことは私はよくないと思います。やはり削減するものは削減していくということがいいんではないかと思いますが、いろいろの問題でまだまだ役人のつまり交際機関のようなものですね。そういうものなるべく負担をしないように、しかし相当その中ではわるくちいておると思いますが、いくらいいてもかまわない。だれかがいわなければならぬですよ。今の中小企業会館だって、勤労者会館でもそうです。自分らできめて出せ出せということはいひどい。辻田さん検討してください。来年度出す予定しておりますけれども、そういうものは出さずに地元の勤労会館ですか、あんたがやっておるおあいりものを拡張するとかいうことならばそっちに振り向けたいと考えておりますが、いずれにしても負担金等につきましては、なるべく出さないようにやって今年からのぞんでおるわけですが、とにかく勤労者の福祉会館ですが、本年は半分組んで来年度は半分出す。こういう予定になっておりますから御了承願います。

○ 教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 八九ページの電気保安業務委託料のことについてお答えいたします。一定

容量以上の電力を使用いたします建物につきましては一定資格のあります電気管理責任者を置かなければならない。こういった規定があるようでございます。そういったことから関東電気保安協会これに委託いたしました定期的な検査を願う。こういったことで昨年度までは市の建物につきましては大半これに依頼していたと思いますが、今年度は財政課の中に電気保安係これが設けられまして、そこが責任を持ってやる。このようになっております。

それから、九一ページの北条小の建物の設計についてでございますが、私も工事に入ります前に常にその設計者の建てました建物が夏、冬における気温そういったものについて大きな欠陥がある。そういったことと一部署者がいったそうでございますが、私もそういったことは存じておりませんでした。あくまでも權威のある設計、そのような判断のもとに設計を依頼したわけでございますが、過般の二十五号台風におきまして北条小事実被害を受けております。出入り口の扉がこわれましたこと。それに伴いましてガラスが三枚割れましたこと。それから三枚はひびが入っておりますこと。それから教室と管理室との間に廊下式のものでワークラウンジと称するものがございしますが、その天井に張っ

てありますガラスが三枚外に飛ばされた。それから三十数枚ひびが入っていた。こういった被害でございますけれども入口の扉につきましては二枚の扉のなか、一枚の扉は上下に固定されておりましても、一枚については扉の固定がなかったためにおそらく扉のひずみによる被害ではないか。このように業者は判定しているわけでございます。それからワークラウンジにあります天井のガラスにおきましては、台風によって生じた特異現象による被害、このように業者は申ししております。と申しますことは、北条小の建物は北側が高く、南側が低い片屋根式の部分でございます。それがワークラウンジの上の屋根の形でございますが、北からの風を受けてまして屋根の頂点を風が通り抜けます際にその南側にあります傾斜部分に真空状態の現象が生じたのだろう。そのためにガラスが上に吹い上げられた。このような業者の一応説明を受けております。それにしまして、そういった現象に対応する施設であらねばならぬということから業者を追及しまして、業者にただいま施行の手直し発注とともに施行の手直しを依頼しております。

○ 社会教育課長 (小宮義夫君) 九七ページのPTAの助成の問題でございます。その御質問でございますが、昭和四十六年度今年は三年目でございます。PTA会費を取らなくてもPTAが運営活動できるように措置をしてあるわけでございますけれども、私たちは次の四点からこの問題を、この措置を評価の観点としてながめていっておるわけでございますが、そのながめ方の問題でいろいろあるのではないかと思います。とりあえず私たちはこの措置の問題として教育費父兄負担の軽減というのを第一義に考えてながめなければいけないと思います。その次に私たち教育委員会の立場からしまして、PTAの本質化への問題は一体どうかというのを第二の観点として考えていきたいわけでございます。第三点としましては、これはまだまだ問題がたくさんあるわけでございますけれども、以前と比べましてたいへん立ち直ったあるいは正常化してきたといえると思いますが、つまり公費、私費、PTA費これらの区分けを学校やPTAがはっきりしだしている。こういう第三の問題点、第四の観点といたしましては、学校運営の正常化の問題でございます。

この四点の問題を評価の観点としてこの措置をながめましたときに、まず第一点の教育費父兄負担の軽減につきまし

ては、もう申すに及ばず事実でございます何もういことはいわけてございます。

第二のPTAの本質化の問題でございますけれども、これはこの措置を取らない前と比較して評価をしてみた場合にこの措置をしてから現在特にこのPTAの面で著しく現われております効果としては、本質化の面としましては具体的に申し上げますと、広報をどのPTAでも発行して会員の一つの研修の場を広報に求めようと努力している点がはつきり現われて参つております。これと付随しまして機関紙の問題も方々のPTAで発行しだしてきておるといふことも事実でございます。それから研修、集会活動がたいへん活発に行なわれて参りました。特に家庭教育学級等は以前と比べますとたいへん盛んでございまして、講演会あるいは話し合いそういうものを通じて会員全体が研修していこうというそういう努力がはつきり現われて参つてきていると私たちは認識しているわけでございます。その他時間的な一つの集まりのスピーデーな点とか、いろいろこういふことに付随しましてPTA活動というものが以前と比べまして本質的な活動を進めておるといふことがわかるわけでございます。

第三点の公費、私費、PTA費の問題でございますけれども、これもさつき申し上げましたけれども、まだまだ問題はあるようでございますけれども、以前と比べますとたいへんはつきりした使い分けをしていらつしやるということを私たちは知るわけでございます。

第四点の学校運営の正常化の問題でございますけれども、これはおかげさまで学校教育費がこの措置をしたためにたいへん増額をしているという事実を私たちははつきり認識し、ありがたく思うわけでございますけれども、とかく今までPTAの会費が縁となりまして、その縁がくされ縁となつていたという事実もよく知つてゐるわけでございますが、そういう問題がなくなつてきているといふこと。それから学校全体の教育の姿勢というものが正常化の方向をたどつてきているのではないか。そういうことも私たちはいつも心にとめて見守つてゐるつもりでございます。

こんなような四つの観点でごく簡単に申し上げますけれども、評価をして参りましたときに、こういう見方があるいはもう少しもつと広い立場でながめなければいけないといふこともいえると思ひますけれども、とかく私たちはそう

いう評価の面をもつともつと研究していく必要があるのではないかと思います。現在、今申し上げました四つの点を認識しながらこの助成のことについてもつと研究していかなくてはいいと思います。何といいましても、PTAの本質化への一つの過程であると、こういうふうに認識してこの措置が金科玉条のものであるかどうか、今後の私たちの研究に待たなければいけないではないか。この点PTAの会長さん、会員の方々と話し合いながらこの問題を進めていきたいと思っています。以上です。

○ 九番 (辻田 実君) 第一点の四〇ページの件につきましては、そのようなことでもつてごく手落ちの中から若干の漏れだということでありますれば、幸いでございますので今後この種の問題については非常に憲法論争、その他の問題にも発展しかねない問題でございますから慎重を期してやつていただきたい。特に市長の雇用者の安定という大方針があるわけでございますから、それをそこなうものが一つでも出てくることは遺憾でございますので、今の答弁で安心いたしました。了解いたします。

二番目の体育振興費でございますけれども、四十四年から三年間十七万円の県費補助金が出たということでございますけれども、四十四年度からということになると、来年度はこの予算が出なくなるのではないかと思います。何となくでございますけれども、来年度十七万円の県費補助金が出るかどうか、県費補助金が出ない場合にこの種の問題について継続するのか、継続する場合に福祉の形の中でやるのか。特に四・五日前の千葉日報を見ますと県の青少年行政の育成についての抜本的改革案というものがかなりスペースをさいて出ておりました。特に青少年相談員の活動のあり方等の中から青少年グループの育成、今まで偏重されてきたところの教育、青少年の育成をもつと社会教育の面からグループ育成というものを抜本的にやつていくのだ。相談員の配置も学校単位で専門部を各町村に十五とか、十六設けていくという改革案が出ておりますけれども、これらと関連いたしまして体育、教育委員会等の関係から連携がどうか。この予算等については来年度以降の予算についての見通しがどうなのか。その見通しについては教育委員会の社会教育並びに体育予算ということで一本化する意向があるのかどうか。この点について考えておつたらお答え願いたい。一つは来年度継続

するのかどうか。される場合には体育課乃至その他講師謝礼云々の面については社会教育等の項目になるのが普通であるし、県の方針もそういうような抜本的改革案が新聞紙上で公表されている中でその考えはどのようになつてゐるか。あつたら教えていただきたい。

それから、三番目のドジョウでですけども、三十一名の組合員で当初スタートしたということでございますけども、聞くところによると半分以上に組合員が減つたというようなことを。当初出発した組合が半分に減つたというようなことも聞いております。そこらへんが事実かどうか。減つた理由を私は耳にしているだけで、私も責任がありませんけども、農協でもつてやつてくれという金を持つてきたから、損はないからやつてみた。採算的には全く合わなかつたけれども補助金が出たので何とか自分のみぜにぐらいカバーできた。これでもつて来年やつたら補助金が出なくなつちやうからおつかなくてやつていられないということをやめた人が相当あるということをお聞いしております。事実、そういうやめたという人について苦情を切々と私に訴える人があるものですから、そういう関係の中で今後この事業をやつていくとなると、その総事業費の大体四〇％補助ということでございますから、えらい補助でございます。農業にしても漁業にしてもこれほどの個人企業に対して育成事業といへども出すということについては異例の補助金でございますので、これがそういう形で市が一生懸命力を入れておる反面、やめていつちやう、先の見通しがつかない場合の考えがないとかなりギャツプがある。その点心配されるのでそうした心配はどうか。とにかくこの種の問題については四〇％近いの補助金特にそれは個人の経営に対して出ておるということですから、組合を通じて出ていきますけども、個々には相当の額が出ていますから、これがあとでわらいものになつては非常に遺憾だと思いますので、今までの問題はさておいて今後慎重を期したいので組合員の減少ということについてももう少しどのように考えておるか。私が聞いたのは本当かどうか。その見通しについてお伺いしたいと思います。

それから、四番目の市長さんがいろいろと御答弁願つて私も同感でございます。市長さんに対してわるくちをいつておる人もおるといふことで市長さん氣にされておりましたけども、私は市長さんの分担金また不必要な県の負担金それ

らのものについて英断をくだしてことごとく新聞紙上に発表されたというようなことでございまして、私は非常にりつばなことだと思っております。どうか、私は一議員といたしましても市長さんのその方針はわるくちなど決して申し上げません。またそういうわるくちをいうような他の人がおりましたら、そんなことを気にせず大いにやつていただきたいというふうに考えておりまして、非常に意を強くしたものでございますので、今後ともそのようにお願いしたいと思います。なお、地域におきます労働者に対してはさらに力を入れたいということでございますので、本当に申しわけないと思っております。

五点について一点のみ質問いたしたいと思っております。大体問題の概要についてはわかりました。当然暑さ、寒さに弱いという設計上のミスということについて聞いておらなかつたということでございますから、それが当然だと思っております。聞いておればそういう工事はしなないと思えますから私の質問がやほつたかつたと思えますが、しかしながら内容には触れさせんけども、事前に教育委員会並びに市の建築課等において名古屋大学の設計者から同一の学校が愛知県下にあるということをおつたかどうか。それを地元の業者は一、二見に行つたそうでございます。これは本人から聞いたわけですから間違ひございせんけども、市の関係者の中でもつてあの工事着工・請負契約締結前にその学校を見た人がいるかどうか。教育委員会並びに建築課等についてその点についてお伺いしたい。内容については別でございします。聞いたかどうかということ、見たかどうかということの二点についてお伺いしたい。

六番目の問題についてはいろいろと意見があるようでございますけども、私は社会教育課長の申されました三項の点が進んでおるということを聞いて安心しました。すなわちPTA会費の公費の部分と私費の負担する部面が明確化されつつあるということと進行しておるといふことでございますので、私はこの点さえはつきりと成果が上つてきておれば今後の問題として時間的に解決するといふふうに思ひますけども、そのように解釈してよろしゅうございますか。そういうことでもつてその他の四項目中三つほどありますけども、そうした問題は当然である。根本的な問題は三項目に指摘された問題が根本でございしますので、その点について発展しているということが確認できれば私はその度合いがどう

こうということは申しませんが、今後社会教育課においてこの点についてさらに留意して、三項目めだけでいいと思います。私の場合は、課長はそうはいかないと思いますが、その点留意して進んでいただきたいと思います。再質問以上でございますので、再度お答えを。

○ 福祉事務所長（斉藤武男君） 五三ページの関連につきましてのお答えを申し上げます。

体力づくりにつきましては四十四年から今年で一応十七万の補助金が打ち切られるわけでございますが、おかげさまでいろいろ御協力いただきまして、実績報告を出したわけでございますが、この十月に全国表彰がくることになつたわけでございます。御協力に対して厚く感謝申し上げます。

御承知のとおり県の段階におきまして、社会部の中にございました青少年課がこの五月に機構の改正があつたわけでございますが、知事部局と教育委員会部局それから県警三者の合同によります組織が知事部局に今度新しくできまして青少年対策局という形になつたわけでございます。いろいろその中で青少年問題、青少年相談員の関係につきましてもいろいろあつたわけでございますけれども、そのようにまだ県の方針というものが明らかにされてございません。できましたならば十七万円の補助金にかわるべきものを来年度もぜひいただきたいというふうな考え方でおるわけでございますが、まだ県のほうの方針がはつきりいたしておりませんので、いまだしく時間的な余裕をいただきたいと思うわけでございます。

それに関連いたしましたして、いわゆる市の中でこの青少年対策を福祉事務所でやるか、それから教育委員会で作るかというような御質問だと思ひます。今申し上げましたようなことで県のほうの考え方とはつきりしておりませんし、いろいろ青年館でありますとか、児童遊園でありますとか、青少年問題協議会でありますとか、いろいろ御承知のような縦割りの組織が流れてきておりますので、それらの調整をどういう形にするかということで追々事務の段階におきましては、教育委員会とも御相談申し上げておるわけでございますが、いずれにしましても、この青少年の健全育成対策について万支障のないような体制をしたいというふうな考え方でおりますので、よろしく御了解願ひたいと思ひます。

○ 農産課長 (石井 謀君)

二点目のドジョウの養殖の件でございますが、半分に減じたというようなお話してございますが、この点につきましては私どもまだ聞いておりませんが、先ほども申し上げましたように、当初三十一名の組合員で千余キロの稚魚を計画いたしまして、それが十月のはじめに入っておりまして配分しておる関係上、そういうふうに減じておるということは考えられないわけでございますが、この点について再調査いたしたいと思っております。なお、ドジョウの養殖につきましては、私ども先進地である長生郡の長生村の十年ばかりドジョウ養殖をやりました方の意見を聞きますと、大体三年程度は非常に赤字が続いたんだということは聞いておりますが、まだなにしろはじめての事業でございますので、歩どまりをどの程度におさえるかということが一つのポイントじゃないかと思っております。

○ 建築課長 (池田春雄君)

春日井小学校を見ておるかどうかというお話してございますが、これは北条小学校に工事を設計委託する以前に北条小学校の職員とPTAと、それから私と春日井小学校を見学しております。

○ 教育長 (高木 正君)

北条小学校の中で職員が学校建築研究会というのをつくりまして、三年にわたつていろいろの面から検討したわけでございます。私たちはその資料をやはり見て検討しました。それから建築課長からいろいろの話を聞いたわけでございます。その春日井小学校の設計図も見せてもらいましたが、教育機能を果たす、それから学校管理上すばらしい学校だと思っております。

○ 九番 (辻田 実君)

おおむね了承いたしましたんですが、最後に私は四点についてこの決算報告を出すときにさしつかえがなかったら公表してもらいたい事項があるので、私は決算特別委員会の中でもつてやつてもらいたいと思いますが、全体を通じて資料の提示をここで依頼したいわけでございますけれども、第一項はこの二、三日前の新聞にも出ておりましたが、現在館山市の工事関係についてかなりのうわさが流布されております。これらの問題についてはやはりわれわれとしても厳格に対処しなければならぬではないかと思ひます。四十五年度の予算中、工事請負費といたしまして二億千九百二十一万七千五百八十一円の請負契約があるわけでございますけれども、できたら業者別の落札分類がで

きたらお願いしたい。それから現在館山に指定業者というものがあるのではないかと思いますけども、その点についてその指名回数でけつこうでございますから、業者ごとに分類できたらお願いしたい。そうしてこれらの問題について本当に外部から疑惑が持たれないように潔白性を明らかにしなければならぬではないかというふうに思いますので、私はこの点について支障がなかつたら印刷でどうこうということではございませんけども、ある程度決算報告乃至委員会の中でもつて取り上げていただければ、この点を明らかにしてもらいたい。

それから、二番目に市の中でもつて、予算の中でもつて全般にわたりますけども、燃料費が七百四十九万五千三百四十円計上されておるわけでございますけども、これについてもたかくのうわさがあるわけでございます。私はうわさをどうこうというわけではございませんが、やはり私自身といたしましてき然たる態度でもつてそのうわさについても答えなければならぬ腹づもりを持たなければならぬというふうに考えております。これらの購入先並びに契約状況について明らかにされるものでございましたら、後日特別委員会等の中において明らかにしていただきたいというふうに考えております。

それから、三番目に教育費の教材、教具の補助金でございます。これを一括購入云々によつて文房具商、その他から相当意見が出されております。うるさいほどというと非常に失礼な言い方になりますけども、行つた先々でもつて聞かれて答弁をする資料もございません。その腹づもりもありませんからそのまま口外するということはございませんけども、この点において四十五年度予算の決算でございますから、これについて購入先と品目が明らかになつたら特別委員会等において明らかにさせていただきたいというふうに考えております。

さらに、先ほど質問しましたところのスポーツグループの用具購入費ですか、これについて三カ所については名前を聞いたわけでございますけども、これの結成当時の構成人数それから今日の発展状況、これと関連いたしました四十三、四十四、四十五年度予算面から三年対比の中でもつてこの問題が明らかになっていただけたら一つお願いしたい。以上、これはかなり膨大の問題でもつてこの中で質疑すると時間がかかりますので、要望意見として決算審査委員会の中

で明らかにされる点だけでけつこうでございますからお願いいたします。私の質問を打ち切りたいと思います。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 二八ページの歳入の面ですが、全体として予算に対する補正予算が約三億ありますが、補正予算としては相当高額の補正予算になっておりますが、予算が一年間の見通しをつける上でこういうふうな補正予算をたくさん組まなければならないという状態になっておりますが、その財源の点について明らかにしていただきたい。それから、細かいものですが、一〇ページ道路占用料が二十九万、三十一万百八十六円収入済になつておりますが、おそらく道路占用料というのは東電の電柱の使用料かと思うんですが、これが東電のほうからの届出だけをもとにして積算しているのか。市のほうで実際にどのくらいあるかということ調査の上計上したのか。その点について伺いたいと思います。

二四ページ教育費の寄付金の問題ですが、これはきのうも市長さんに相当御質問申し上げたわけですが、市長さんのこの議会の報告でも住民負担の軽減をはかつてきたということが市長さんからいわれておりますし、きのうの質問の中でもPTAの会費からランドセル、教材費、保育料、その他の問題で相当そういう方面で支出をしているということでブルーぐらゐは寄付を出してもいいんではないかというお答えもあつたわけですが、那古小のブルーの寄付金が三百二十三万ここに収入として計上されております。市長さんの考えでは任意の寄付だということでは法に違反しないということをはきのう回答したわけですが、これを任意の寄付とみているのか。そういう点について伺いたいと思います。

それから、歳出の面ですが、三六ページ、私よくわからないんですが、館山郵便局の解体工事請負費六十五万七千円支出されておりますが、館山郵便局と館山市との関係について、館山市が解体に出さなければならない理由について御説明願いたいと思います。

五二ページ、負担金補助金の件でございますが、社会福祉協議会補助金に八十一万支出しておりますが、これは補正されて八十五万ですが、この社会福祉協議会というのはどういう性格のものか。この団体に対して八十一万の補助金を

出しておりますが、これの使途がどういうふうに使われているか。その内容についてお伺いしたいと思っています。また社会福祉協議会の名前で各町内会を通じて寄付金が割り当てられております。こういう点についてかなり不満が出ておりますので、この寄付金がやはり任意で出されないで町内会費に含めて半強制的に徴収されておるといふ点についての不満が相当出ておりますので、社会福祉協議会の内容そういうようなことについての御説明を願いたいと思います。

五八ページ、安房郡市医師会病院にレントゲン購入費としての補助金が百二十五万円出されております。医師会病院の状態を見ますと、一般の病院とかわらないどころか入院する場合に室代として一般で一日五百円、特別の室に入りますと二千円取られるということで貧乏人には入院できないというような、そういう高い病院になつております。これはやはり医療が一つの公益性を持つていとはいいいながら営業的な目的を持つてやられてゐるわけでありますので、これに特別に百二十五万円も補助しなければならぬというような理由についてお伺いしたいと思っています。

七三ページ商工会議所の補助金二百万円が計上されております。この二百万円がどのように使われているのか。御説明願いたいと思います。

九七ページ、館山市の青年団体連絡協議会の補助金として四十万円支出されておりますが、館山市の青年団体の運動というものがどのようにやられているのか。聞くところによると実態がないように聞いておりますが、ここに四十万出されてゐる。この使途についてお伺いしたいと思っています。

一〇八ページの国保の事務費の負担金これが一千百三十九万二千円計上されております。この事務費の当然国から委託されているわけですから事務費が国から支出されると思うんですが、予算面からみますと一般財源で相当の事務費の負担があるように見られます。この国庫支出金と一般財源との差がどのぐらいになつてゐるか、お伺いしたいと思っています。

以上で質問を終るわけですが辻田議員の質問と関連して一つ、PTAの会費を補助していることについて問題が出ていますのでちよつと説明したいと思うんですが、PTAの会費を市が補助してこれを会計検査を教育委員会がやつてゐるようでございますが、会計検査を通じてPTAの自主性がおかされるというようなことが聞かされてゐるわけです。

そういう点についてはPTAはPTAとして自主的な組織ですから、補助金を出して補助金をどのように使つかという事はPTAが自主的に考えて使い、会計検査もPTAも当然やられていると思うので、教育委員会が会計検査を通じてPTAの自主的な活動に干渉しないように願いたいと思うんですが、そういう立場から一つ。

それから、私が六月議会で交際費を半減しろというふうな事。これは政治姿勢をただす意味で交際費の半減、食料費の全廃というふうな事を出しましたけれども、これについてのこれは特別委員会でもよろしいと思いますが、資料の提出をお願いしておきたいと思っています。それは交際費がどのように使われたか。そういうものについての領収書を提示してもらいたいという事をお願いして終ります。

○ 財政課長 (長谷川広治君) 補正財源の内容ということでございますが、大きなものを申し上げます。市税におきまして千六百万、交付税におきまして八千二百四十一万八千円、国補助金におきまして四千三百八十七万一千円、県補助金におきまして千八百八十七万六千円、財産収入におきまして八千八百七十一万四千円、繰り越し額におきまして二千二十万三千円、他はその他の財源ということに相なっております。

それから、順序が違いますが、館山郵便局舎の取りこわしでございますが、あれは個人の所有地を借りまして市が建物を建て、それを館山郵便局の局舎としてお貸ししておつたという関係でございます。局のほうから返還を命じられ私のほうにもどつて参つたわけでございます。その時点で土地の所有者にそれぞれ土地をお返しすることになることになつたわけでございますが、上物を取りこわさなければ土地の所有者も四区分ございましたので建物を取りこわして土地をお返ししたというふうな状況でございます。

○ 土木課長 (飯田治男君) 第二点の道路占用料につきましてお答えいたします。東電の電柱につきましては、七年ほど前私どもの職員で全部現地を調べましたものについて占用料をいただいております。その後立ちましたものについてはその都度私のほうの係が立ち会ひさせていただいております。

○ 市長 (本間 護君) ただいま那古小学校の寄付金の問題についてお尋ねでございますが、ブルですか、これは

どこでもそうですけれども、私どもが金を寄付するからやつてくれとやたらに陳情にきましてしやうがなくてそれを受け予算化してやつておるわけでございまして、そんなわけでございます。

○福祉事務所長（斉藤武男君） 五二ページの市の社会福祉協議会の補助金の関係につきまして御説明申し上げます。

一五ページをごらんいただきたいと思いますが、この中へ県補助として社会福祉協議会の活動費補助金として二十六万四千四百四十円あるわけでございますが、この団体は社会福祉法人館山市社会福祉協議会と申しまして、現在会長が佐藤直右でございます。会員としましては一応市民全員の方が参加をしていただくんだというようなたてまえになつておるわけでございますが、漠然としたいい方でございますけれども、市のやつております社会福祉関係以外のいわゆる館山市民の皆さんの社会福祉の関係を増進をはかりたいということでございます。

この事業でございますが、さらにこの額のうちいわゆる言語障害児を持つ親の会、手足の不自由な子供を持つ親の会それから原爆被害者団体に対しますもの。それから老人クラブ連合会こういうようなものの各種団体に補助金を社福のほうから市が委託してやつておりますが、さらに現在民生委員さんがあるわけでございますが、そういう業務の活動委託も社福を通じて実施させていただいておるような次第でございます。

○保健課長（網島憲治君） 安房郡市医師会に対しますレントゲン購入の補助金百二十五万円について御説明申し上げます。現在安房郡市におきます胃のレントゲン検診を医師会病院がやつているわけでございますけれども、胃ガンの検診につきましては、私どもの運用的の面がまずいのかもわかりませんが、市民の方に浸透しておりませんけれども、やつております業績といたしましては、館山市におきましては四十三年から始めたわけでございます。二千、三千五百四千五百という実績を持っております。それから検診の内容は、千葉大の第一外科と提携いたしまして、ご存じの方があるかもしれませんが、日本の一流の先生でございますけれども、今慈恵医大の教授をやっておりますが、名前は失念いたしました、その先生の指導のもとで検診でございます。業績は現在の日本のこの種の検診の中でも非常に優秀であるということにされております。それで、本年度の全日本対ガン大会で表彰を受けるような状況でございます。

そのことは別にいたしまして、この検診をいたしますのに病院が投じた費用これはレントゲン検診車とそれに伴いますものが千六百四十六万、それから検診をいたしました結果、コバルトというのがあるのでございますが、これは放射能を受けますので特殊な病棟を建てなければなりません。その費用が六千九百万。それからレントゲンの精密検査いたしますのに大体安房郡市一万程度やつておりますが、それを連日やつておりますと放射能をあびる関係でテレビレントゲンを設置しております。その関係が六千八百万、このようなことで検診を始めますのには、採算ということではとてもやれないものでございます。そういう観点から現在日本でガンにつきましては第二位でございます。館山市もたぶんにもれず第二位でございます。ただし、五十歳以上一定の年令を区切りますと第一位でございます。そうして現在の成人病の一番大きな社会的悲劇をもたらし病気を放逐しようというたてまえから館山は総額でレントゲン車だけというのもについては二百五十万、それから安房郡の町村が二百五十万、ただし館山市は二カ年に分割して補助してきます。

それから、国保関係の事務費の関係でございますが、これは渡辺さん御指摘のとおり、事務費は全額国庫負担というふうなたてまえになつておりますけれども、現在の状況下ではわれわれがいつも要望しておるのでございますが、事務費の内容について非常に問題があるわけです。といいますのは、各町村ともいわゆる職員の月給、その他のものがまちまちでございます。そこで、われわれは標準事務費を設定して国が定める標準の事務費にかかるだけは全額補助してくれという要望をしておりますが、現在のところそういうことには立ち至つておりません。そこで、何をもちて事務費とするかということになりますと、おそらく渡辺さん御指摘では総務費であろうと思います。この中には国庫補助金の対象になるものとならないものがございますが、一応総務費から国庫補助金相当額を引いた額、これは昭和四十五年度では八百六十二万このようになろうかと思えます。

○ 商工観光課長（鈴木 力君） 七三ページの商工会議所補助金二百万の使途につきましてのお答えを申し上げます。商工会議所で行なつておりますおもな事業といたしましては、特に小規模事業といたしまして各商店の技術指導ある

いは商店街の振興対策といたしましての経営の合理化あるいは設備の近代化等につきましては、昭和三十九年度の決算でございます。その他教育研究あるいは労務改善対策そういったことを主体として事業を行なつておるわけでございますが、これらの事業に対しまして市といまして補助金を出しておりまして、なおその他商工会議所本来の運営費といまして、現在十名の商工会議所職員がおりますが、それらの人件費等に対しましての補助というようなことで支出しておるわけでございます。

○ 社会教育課長（小宮義夫君） 青年団体連絡協議会四十万の補助金の問題でございますが、昭和三十九年度の決算をみますと、会費が五万六千円、市よりの補助金四十万円、自己行事参加負担金四十五万九千三百三十円、寄付金一万一千円、雑収入二千二百四十二円、繰り越し金二万二千二百九十円、合計九十五万六千六百六十二円となっております。これとどういふ行事あるいは研修会、その他をやつたかということをお願いすると、いろいろな研修会、講演会をやつております。たとえば、レクリエーション指導者研修会、勤労青年研修会、幹部研修、女子問題研修、キャンプ指導者講習等々毎月のように講習会、研修会を計画したり、共催したりしてそれに参加しているわけでございます。なお、教育キャンプをし、市青協の独自の事業としてやっております。それから球技大会これは全国の大会につながる球技大会でございますが、そういうものを毎年やつております。宿泊研修、団員研修会といまして毎年一回宿泊研修をやつておるわけでございます。なお、特筆すべきこととしては、これは先輩の意思をつぎまして若人という機関誌を毎年発行をいたしているわけでございます。そういうような各種行事等を繰り返しまして、その使途が九十五万六千六百六十二円という中に市の助成金が四十万入つておるわけでございます。

ただ、問題がございますのは、ただいま館山市青年団に加入しております青年諸君は二百二名でございます。これは全体の勤労青少年から見ますとたいへん少ない数でございます。団体連絡協議会には七地域の青年団が加入いたしておるわけでございますが、その総数が二百二名、第一次産業に働く青年たちが百三十九、第二次産業が九人、第三次が五十四名、これは全体で申し上げますと、これを昭和四十五年度の国勢調査の結果でございますが、勤労青年十五歳か

ら二十四歳までの青年たちが四千八百九人おりました、この割合からいいますと二百二名というのはたいへん少ない数でございますが、そういう精銳主義の青年たちが現在大きな活躍をしているわけでございます。問題は加入してない四千六百七名の青年たちをどうするか。これは私たち教育委員会の大きな問題でございまして、今後大いに研究さしていただきたいと思います。以上です。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 市長さんの答弁でブルの寄付が地元が要望するから市がやつておるのだというそういう回答ですが、実際やつておるこの寄付金の内容というのは地財法に違反したり、自治庁通達に違反したりする割り当て寄付になつておるわけです。それだから私が問題にするわけです。そのところをやめたらどうかということでございます。この問題は市長さんやめるまで追及するつもりでおりますが、今後もしやういふような強制的なやり方をやつていくのかどうか。市長さんの考えでは任意の寄付だから財政的に当然受ける。法に違反しないといふけれども、当然任意の寄付ならばこういう問題はないわけですが、問題は強制的寄付になるからそれを問題にしているわけです。これは当然地元が要請するから要請したやつを市が取り上げてやるのはあたりまえだ。こと教育費に関する限り市が予算を組んでやるべきだ。地元の要請があるから、それだからということとは政治感覚がおかしいんではないかといふふうに考えます。そういう点についても一回市長さんのほうから強制ということになっている。そのことについてそれを続けるのかどうか。その点明確に、きのうの答弁でもそういう点はつきりしないわけです。それだから、この問題はことあるごとに問題にしていかなければならない問題だ。そういうふうに思っているわけです。

それから、補正予算の歳入の面で、教育費の補正がかなり高額にやられておるんですが、一億九千五百万、この財源について説明がありませんでしたけれども、どういふところから財源を持ってきたのか。その点。

それから、国保の關係の総務費いわゆる事務費の問題ですが、これは実際にかかつているのを国が当然出すべきものを出さないといふことでありますので、その反面に先だつての報告の中にありましたけれども、補正予算に出てくる要するに計算の多く見積つたといふことでこれを国に返すといふようなことが出ていますか。これは当然返さなければな

らないと思いますが、返すものは返して国から出させるものは出させるという方向で努力してもらいたいと思うわけです。

それから、青年運動の問題です。全体から見ても確かに二百二名というのは少ないので、今青年の不健全な状態がかなり出ておる。そういう状況の中で健全な青年育成という立場に立てば重要な問題だと思ひますので、その点はもつとつと力を入れていただきたいと思ひます。以上です。

それから、PTA 監査についての答弁がありませんでしたので。

○ 教育長 (高木 正君) 市の教育委員会としては、PTA 会費についての会計監査は行なっておりません。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 私の聞いたのでは、教育委員会が監査するといひるので PTA の自主性が非常にかかるといふようなことを聞いておりますが、これは船形小学校の問題だ。

○ 教育長 (高木 正君) 市の教育委員会としては会計監査をやる権限もございませんからやっております。

○ 財政課長 (長谷川広治君) 教育費についての追加総額一億四千七百十九万六千円の財源といふようなことでございますが、大きく追加をいたしましたものは温水プールの購入費八千九百六十万六千円のものがおまなものでございます。その財源としては八千八百六十万六千円土地の売却代金を充當いたしております。

動 議

○ 二四番 (西村真次君) この際、議会運営協議会を代表いたしましたして動議を提出いたします。

ただいま議題となつております認定第一号乃至第七号昭和四十五年度一般会計並びに特別会計決算書の審査につきましては、まだ他に発言もあるかと思ひますが、この程度において質疑を打ち切りまして、なお本案はきわめて慎重を要する案件でありますので、議長、監査委員を除く十名の委員をもつて構成する決算審査特別委員会を設置し、これに一括審査を付託されますよう、議事進行の動議を提出いたします。なにとぞ満場の御賛同をたまわれますようお願い申

上げます。

(「議長、議長」と呼ぶ者あり)

決算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託

○議長 (吉田勇治郎君) ただいま二四番議員君の動議を議題といたします。本動議は、認定第一号乃至第七号についての質疑を終り、さらに慎重審査の必要上特別委員会を設置し、これに一括付託し、後日の本会議までに審査を了しその経過並びに結果の報告を求める。なお、その委員の数は十名とし、選任の方法は議長、監査委員を除いて選考し、議長の指名によることとあります。

おはかりいたします。この動議に御異議ございませんか。

(「異議あり」と呼ぶ者あり)

○議長 (吉田勇治郎君) 異議ありとの声がありますので、起立により採決を行ないます。

(「まだ二人しかやつてないじゃないですか。まだありますよ。」と呼ぶ者あり)
おはかりいたします。本動議に賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

起立多数。よつて本動議は成立いたしました。

暫時休憩いたします。

午前十一時四十一分 休 憩

午後 一時 三十分 再 開

○議長 (吉田勇治郎君) 午後の出席議員数二十四名、休憩前に引き続き会議を開きます。
これより決算審査特別委員会の委員を指名いたします。

二番議員 林 豊君、 六番議員 栗原 一雄君、 九番議員 辻田 実君

一〇番議員 渡辺軍治郎君、 一二番議員 藤田 益治君、 一三番議員 五十嵐 昇君

一六番議員 辻井 謹爾君、 一八番議員 宮野 敏朗君、 二四番議員 西村 真次君

三〇番議員 遠山ヨネ子君

以上、十名を決算審査特別委員会の委員に指名いたします。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○ 議長 （吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて決しました。

ただいま決定されました決算審査特別委員会に認定第一号乃至第七号昭和四十五年度一般会計並びに特別会計決算を一括して付議し、後日の本会議までに審査を了し、その経過並びに結果の報告を求めるようにいたします。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○ 議長 （吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

議 案 の 上 程

○ 議長 （吉田勇治郎君） 日程第二、報告第四号を議題といたします。

報告第四号 安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出について

質 疑 応 答

○ 九番 （辻田 実君） 質問いたします。六ページ科目三の委員会でございますけれども、委員会が全く開かれてないということでございますけれども、この委員会の権限、委員会がこうして開かれなくてもいいものかどうか。普通考

えられますと委員会の議を経て予算、決算が報告されるというふうに常識的に考えられるんですけども、予算科目、その他をみますと、そういう決議機関が委員会が開かれないうちに総代会が開かれてそこで予算、決算が承認されるのが委員会費がゼロというのはちよつとわからないものですから、その点について内容を教えていただきたいと思います。それから、一一ページの事業実績でございますけれども、丸山町、三芳村については人員がふえているわけでございます。区画区域内の館山市だけが農地転用等によつて非常に減少しているということで九十五名も減っているわけでございます。この種の中央土地改良区の指定で事業が発足して区域内の人たちが短時間のうちに九十五名というのは全体から見れば少ないのではないかと思いますけれども、脱落していくわけでございますけれども、どういう形でどういう事情があつたのか。そこらへんについて教えていただきたいと思います。以上二点について御質問いたします。

○ 農産課長 (石井 謙君) ただいまの委員会の運営につきまして御回答申し上げますが、この中央土地改良区の運営につきましては総代会それから理事会等がございまして運営しておるわけでございますが、この予算、決算につきましては、理事会の承認を経たのちに総代会を実施しておりますが、ここにございます委員会につきましては、水をいよいよ利用するという段階においての委員会でございますので、四十五年度におきましては委員会は全然会議をいたしてない。こういうような状況でございます。

第二点の一一ページの組合員の数の関係でございますが、丸山町、三芳村がふえておるにもかかわらず館山市が九十五名も減じておるといふ理由でございますが、この丸山町、三芳村につきましては昨年度の総代会におきまして若干の区域の変更があつたわけでございます。その区域の変更に伴ひましてこの人員が増になつたわけでございますが、面積にいたしました約一〇ヘクタールふえておるわけでございます。なお、館山市の九十五名でございますが、これは地域的に申し上げますと、総体的で一二ヘクタールの面積が中央ダムの地域から除外されたということでございますが、これは先般申し上げましたとおり、転用の面積が非常に多かつたということでございますが、北条地区で六ヘクタール、那古地区で三ヘクタール、九重地区で二ヘクタール、館野地区で一ヘクタール計一二ヘクタールでございますが、そ

いう状況によりまして九十五名の組合員が組合員外になつたような状況でございます。

○ 九番 (辻田 実君) もうちよつと今の点について聞いておきたいんですが、ここで心配なのは一二ヘクタールというのをはじめて聞いた。八一二ヘクタール中の一二ヘクタールが館山市において減つたわけでございますけれども、九重、那古とか減つたわけでございますが、減つたことによつてあたりをくうというんですか、そういうのは心配ないんですか。それが一点。

二番目には、私も二、三相談かけられましたが、土地改良区の中に入つておつて土地を売ろうと思つても十年間とか二十年間の契約でしばらくおつて売れないんだ。ただし理事長かなんかの承認があれば農業委員会で農地転用をやつてもらえるんだけど、なかなかやつてくれないので頼んでくれないかということはいわれたんですけども、とんでもないということと断わつたんですが、そういう人たちが五人もやつてくるとあまり多過ぎるという心配があつたわけでございますけれども、そういうことではなくて地域的に除外されるのかどうか。その点について関連しまして土地改良区は転用ですか、何年間かの拘束があるように聞いておりましたが、どのくらいの年数か、あとどのくらい残つておるか、わかりましたら教えていただきたいと思ひます。

○ 農産課長 (石井 謙君) 御質問の第一点でございますが、転用者が多くなつた場合のしわ寄せがほかの組合に入るのではないかという御質問のようでございますが、この場合には組合員を脱退する場合、組合に加入いたしましたときにいろいろ定款があるわけでございます。まず考えられることは、今までの事業費と全組合員で負担しておる要するに事業費の四分の一でございますが、負担しておるそういう方が次々と出た場合につきましては、これは除籍金制度でもつて今までの借入金のあるいは事業費の分は脱退の時点において全額支払うような形でございますので、そのしわ寄せ等はないというふうに考えております。

それから、第二点の土地改良区域内の土地が売れるかどうかという御質問だと思います。土地改良区そのものが制限しておるわけではございません。これは農業委員会の許可があれば自由にこの土地は売買できるわけでございますが、

ただ、今申し上げましたように中央土地改良区の受益地域であれば除籍金を支払つて脱退して土地を転用するというふうなことでお考えいただきたいと思ひます。

それから、年数的に拘束があるかどうかという御質問でございますが、中央土地改良区の転用については拘束はないわけでございますが、ただ、その受益地域内で構造改善要するに区画整理等を行なつた場合におきまして、県の内規で八年間というようなことを聞いておりますが、これは別に法律的にあるわけではなくて、転用の一つの基準と申しますかそういうような関係で八年間ということを知っております。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 五ページの事務所の中の交際費についてですが、百万の当初予算に対して六十七万三千三百二十二円よけいで百六十七万三千三百二十二円の交際費になつていますが、この内容について御説明願ひたいと思ひます。さらに十四の食糧費が五十万の当初予算に対して、十万八千九百九十九円たしになつておりますが、食糧費、交際費についてはどういう内容であるか。その点についてお伺ひします。

○ 農産課長 (石井 謀君) 御承知のように総事業費のわりに交際費並びに食糧費が多いわけでございます。私どももこの点につきまして土地改良区の理事者側にいろいろと要望してございますが、ただ、問題は現在非常に長い区間の用水路敷の買収の交渉等が数多くあるわけでございますして、そういうような関係が非常に多くて交際的、食糧的のものが多くかさんでいるということを知っておるわけでございます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 食糧費の増加相当多く使つておりますが、食糧費も同じですか。

○ 農産課長 (石井 謀君) 食糧費も同じような状況でございます。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。御質疑なければ次に移らせていただきます。

議案の上程

○ 議長 (吉田勇治郎君) 日程第三、議案第六十八号安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部を改正する規約の制

定についてを議題といたします。

議案第六十八号 安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部を改正する規約の制定について

質 疑 応 答

○ 一四番 (伊賀多朗君) 不燃物処理施設ということと、救急業務の内容を説明していただきたいと思います。

○ 企画課長 (伊藤幸太郎君) お答え申し上げます。不燃物の処理施設でございますけれども、これは安房郡市に四カ所ブロック別に設置いたしました、あきびんであるとか、あきかんであるとか、そういうような不燃物性のごみの処理をやつていこうということでございまして、これは目下仕事を続行中でございます。近々完成する運びになつておるわけでございます。

それから、救急業務というお話してございますけれども、これは消防の広域消防の中で考えておるわけでございますが、これは現在具体的な構想を立てておるわけでございまして、最終的なものがまだきまつておらないわけでございます。目下検討中でございます。そういうわけでございまして、救急業務をこの中にどのように組み入れてどのような運営していくか。これは今後の問題であるうと思ひますけれども、今申し上げましたとおり目下検討中のものでございますので、いましばらくお待ちいただきたい。かように考えております。

○ 一四番 (伊賀多朗君) はじめのほうのはもう少し具体的に教えていただきたい。あきかんとか、びんとかは処理してどういふかつこうになりますか。

それから、燃えろとガスを出すようなビニール、ポリエチレンですか。塩化ビニールそういうものがあるようですが、そういうものの最終処理の姿はどんなふうになつておるか。もしおわかりでしたら教えていただきたい。

それから、あとの救急業務のことは医師の治療のことも含んでございましょうか。

○ 衛生課長 (牧野喜一君) お答えいたします。不燃物の処理施設の關係でございしますが、この燃えないものもあき

かんとか、そういったものは圧縮機によりまして、それをつぶしまして処理する。こういうかつこうでございます。それからびんとか、せとものそういうものににつきましては、これを破砕機を設置することとなつております。それからハイラスチック類の処理でございますが、一応今度の不燃物の処理施設の中には入れてございません。そういうような状況でございます。ただ、こういう特殊のものは機械器具としてございませんが、ただ固めて破砕するというような方向につきましては、当然この破砕機が利用されると思います。

○ 企画課長 (伊藤幸太郎君) 救急業務の場合、現在館山市等で行なつておると思いますが、これは救急病院を指定いたしました、治療までの病的なものををつくりあげようというような構想ではないように思います。

○ 一四番 (伊賀多朗君) はじめのほうの話もう少し先を聞かしていただきたい。圧縮したあとは捨てるんですか。埋めるんですか。どういうふうに処理されるのか。

あとのほうは医療関係のことも含むんでございますか。

○ 衛生課長 (牧野喜一君) お答えいたします。圧縮機もしくは破砕機によつて処理したものを最終処分はどうするかというお尋ねでございますが、あきかんとか、鉄くずそういったものの圧縮したものににつきましては、廃品業者に現在も売りはらつておりますが、売りはらい処理するという方向で考えております。

それから、びん、せともの類の破砕したものでございますが、これはこういうものが定期的に非常に多く出る避暑客の来遊します夏場につきましては、相当いそがれるということは最終処分は埋め立て処分せざるを得ないと思います。ただ、実際にやつておりませんが、破砕機あたりのメーカーの申しますには、こなしたものを砂利とか、そういったようなかわりに建設資材に一部利用をできるといつておりますので、できましたらそういう方面の利用を考えて参りたい。このように考えております。

○ 一四番 (伊賀多朗君) ビニールみたいな類のものを整理するような方法があつたら加えていただきたいと思います。すが、そこまでのことは当分いかないんですか。それとも計画していらつしやいますか。

それから、救急業務ということについては医療関係のことも含んでいるわけでございますね。そういう意味で伺いました。お話しがありました、検討段階だということですが、受け入れ体制側もあるわけでございますから、きまる前に十分話し合いをしていただきたいというふうに思います。

○ 消防長 (星野清之助君) 現在の行なっております状況について簡単に申し上げますと、医療業務を含まないでただ搬送だけでございます。

○ 衛生課長 (牧野喜一君) お答えいたします。ビニール類、プラスチック類の処理のことでございますが、先ほども申しましたように固いものについては破砕ができると思いますが、いわゆるビニール特に館山市あたりで顕著な大きなものといましては、ビニールハウスのあいつたものの廃品でございますが、これはそういうものを破砕できない機械でございます。したがってこのものについては別途考えて参りたいというふうに考えております。

なお、廃棄物の処理及び清掃に関する法律というのも施行がこの九月二十四日でございますので、そのときにはそういったものが産業廃棄物になるのか。一般廃棄物になるのか。産業廃棄物という原則としまして広域的に処理することについては県が主としてやる。場合によっては市町村と協議してやるということで政令、省令等が施行になつておりませんので、具体的ことがわからないわけでございますが、一応今の段階ではやわらかいビニール類につきましては家庭から出る少量のものについては現在の焼却炉であそこから粉じんが公害を起こさない程度に分けながら処理していくということでございます。今申しましたような農業用の大量のビニールにつきましては、収集、処理を市でやるということは見合っておりません。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 四項の消防事務のことについてお伺いしたいと思うんですが、この中には消防団事務を除くとしてありますけれども、すぐに消防団を廃止するということのようなことはできないかもしれませんが、今消防団のことについては人手がないとか、消防後援会の寄付が相当負担になるとかそういう問題が出ております。

そこで、この消防事務を常設消防にかえていくというそういう方向で三カ年計画は出ていると思うんですが、そういう

う常設消防が強化されるに従つて分団の仕事といえますか。この分団が廃止されていくものかどうか。一応そういう見通しをもつてやられているのかどうか。そういう点についてお伺いしたいと思います。

○ 消防長 (星野清之助君) 現在の状況についてお答えしますが、一応常備と非常備の関係につきましては、常備を漸次強化するという方向が間違いないと思います。ただし、非常備、消防団をただいま廃止するかという問題のようでございますが、御案内のとおり消防団は単に火災があつた場合にそれを消すというだけが任務ではございません。もちろん中心的な任務ではございますが、それに尽きるものではないわけでございます。その他の災害等におきまして集団力を必要とする場合などどうしても現時点におきましては、消防団に依存せざるを得ない事情になつておるわけでございます。したがって、ある程度地域の実情を勘案いたしまして、その消防団をやめましても全体的な消防力またはその他の災害対応力に問題がございませんければ、そのようなことにいたす場合もあると思いますが、今のところ消防団をにわかに大きく減らすという方向ではございません。

ここにございます消防団を除くというのは、常備と非常備の所屬する立場を意味しておるわけでございます。現在は一応常備と非常備が館山市の消防として一体的に活動しておりますが、これによりますと、一応常備は常備として広域消防のもとに包含される。非常備は直接市に属するという形に相なると存じます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) そうしますと、今まで消防自体が一体となつてやられたのが今度は常設消防と団との関係が分れるということになると、その指揮系統そういうようなものは独立してやられるような形になるわけですか。

○ 消防長 (星野清之助君) その関係でございますが、これは消防組織法と消防法、片方はいわゆる組織についていろいろたつてあるわけでございます。消防法の場合は実態活動についてうたつてあるものでございますが、この関係を見ますと、一応現在の立場では消防団長は市長が直接任命いたしました、もちろんこれは幹部の数名ということになつておりますが、市長が任命する。消防長は市長の任命ということでございますが、消防組織法のたてまえからいたしますと、特別の場合を除きましては消防団の活動に對しまして、ある程度の指導的な役割を持つております。その関係

は今後、も実際問題としてはかなりウエイトの問題が出てくると思いますが、やはり連絡を緊密にいたしまして、館山市の消防のためにお互いに連携してやつていくという事実はかわらないと思います。

○二二番 (田村源治郎君) 二つばかりお伺いしたいと思いますが、不燃物の処理施設は大体何カ所ぐらいこしらえるか。

それから、三の火葬場施設もそのとおりである。霊柩車も何台ぐらいになるか。祭壇を含むと書いてあるけれど、祭壇であるか。仏壇であるか。

○衛生課長 (牧野喜一君) お答えいたします。不燃物の設置個所でございますが、これは館山と三芳村を含めまして一ブロックで館山市の正木の衛生処理場に圧縮機と破砕機を設置いたします。鋸南地区の組合によりましてごみ処理場あそこに設置いたします。朝夷地区このブロックは千倉のごみ処理場にとりあえず設置いたします。長狭地区これは長狭のほうに一カ所計四カ所設置する計画でございます。

それから、火葬場の関係でございますが、広域圏で新しく設置する火葬場は一カ所予定しております。火葬炉を三基待合室、管理人宿舎、車庫こういうものを建設したいということでございます。霊柩車につきましては九人乗りのものこれはあまり霊柩車が大きい場合は、たとえば農村部あたり入っていくのに困るという観点から九人乗りのものを三台それから祭壇これは市でやつておりますようなあの祭壇でございます。市のもものは四段でございますが、広域圏のほうでやるものは三段というふうに聞いております。これを六台設置したい。祭壇を運ぶ輸送車を一台確保したい。こういうかつこうで準備が進められております。

○二二番 (田村源治郎君) 火葬場のほうは現在館山市の持つておる施設を使うのであるか。

不燃物の処理は館山の現在の焼却炉の付近につくる。また議会も何も相談なくしてそこを使うのだ広域行政で、近所の承諾もなくて市がかつてにそこを指定してしまうということはあまりに不合理ではないか。何らかの相談、地元地区の者に聞いたか。これらの点についてはつきり答えていただきたい。

○ 企画課長 (伊藤幸太郎君)

ただいまの件でございますが、市町村圏のいわゆる共同で処理すべき事業として今回はじめて具体的に四つの項目に分けて、この四つの事業をやつていくことになりましたので、今回の規約改正によりまして議会の御同意を得たいということから御提案申し上げておるわけでございます。でありますので、不燃物の処理事業にいたしても、ただいま衛生課長のほうから御説明申し上げました構想のもとでこの不燃物の仕事を市町村でやつていきたいという御承認を得てお願いをいたしております。

○ 二二番 (田村源治郎君)

今、聞くと場所はここことと選定してあるというのは議会に通じてない。現在の処理場そこにもつていくんだとはつきりやるということは疑心暗鬼である。これは広域行政のためにこれをつくるのだ。まだこれからなんだ。四月一日から来年からするのだ。場所の選定はきまつてないのだということををはつきりしないと、もうそこにつくるのだ。今の課長としても火葬場は館山市のものをを使うのかということを開いたら何にも返事がない。あれを広げた場合どういう影響があるのか検討しなければならぬものがある。さつきまつておるような話だ。やつてもよろしいという議会の承認を得るといふ伊藤課長がいつたのが正しいのか。さつきいつたようにもう選定してしまつておる。四月一日からやるからには何かの相談があるべきだ。こしらえてから相談するのか。どっちが本当か。四月一日からやる以上は内定のものであるのではないか。候補地を選んであるのではないか。それらのものはつきり打ち出されるならばつきりと打ち出してもらいたい。

○ 企画課長 (伊藤幸太郎君)

申し上げます。ただいま私のほうで御説明申し上げたとおりでございます。あくまでも各市町村の議会におきまして共同処理すべき事項を御承認いただいて、そうしてその規約に基づきまして各事業を推進して参入することがたてまえであるかと私は考えます。そういうわけでございます。

ただ、不燃物の問題だけにつきましては、先ほども申し上げましたとおり、いろいろの事情がございまして、現在各四つの予定地の、四ブロックの予定地の処理場に現在もうすでに建築中でございます。といひますのはあくまでも処理場としての施設でございますし、それからまた不燃物の処理事業はあくまでも市町村圏が各市町村四つの市や町に対し

まして不燃物処理の業務を委託してお願いいたすというような方針で考えておりますので、そのような方針のもとに仕事を始めさせていただいておりますのが実情でございます。しかしながら、原則といたしましては、ただいま申し上げましたとおり、あくまでも規約の改正を各市町村の議会にお願いいたしまして、この御承認を得た上で具体的にまた細部的にも業務のやり方等を定めて参るというのがたてまえてございますので、本日の御提案をお願いしたわけでございます。

〇 二二番 (田村源治郎君)

聞くところによれば、もうすでにこの不燃物の処理場はつくりあげているのだ。そうして承認を得るんだ。これは議会が承認しなければつくりあげてはいかぬものをそこにおいてもう広域行政でつくりあげているのだ。これは正しいいき方であるのか。広域行政のためならつくつてもいいのか。館山市の議会には何らの権限はないのか。これらの点をはつきりしていただきたい。つくりあげているのだ。市議会には何ら関係ないのだ。これをあとにまわしても承認してくれればいいんだ。それらの点はいかに考えているのだ。つくつてないものをわれわれに発表するならわれわれは承認する。あまりに議会軽視がはなはだしい。その点についてはつきり御答弁を願いたい。

今度の広域行政の規約の一部改正をつくりあげてはじめて業務をすべきものが、そこにはもうすでに不燃物の焼却炉の土台はしいてある。館山市の一部に。館山市がぜにを出したものでない。広域行政に移管するものではないか。外部から館山市に入ってくるものではないか。今度の行域行政の規約の制定についてはつきりすべきときである。この際はつきりした点を打ち出してもらいたい。

〇 企画課長 (伊藤幸太郎君)

ただいまの問題はたいへんむずかしい問題のようでございますが、私どもといたしましては、御承知のとおり安房郡市の広域市町村圏の事業計画書、その他をもとにしましてのこのような計画が一応打ち出されておるわけでございます。これは皆さま方のほうにもお配りしてあるはずだと思いますが、そのような基本計画なり、実施計画に基づきまして、この市町村圏で共同処理すべき事項の目標が一応かけられてあるわけでございます。ただ、しからば不燃物施設なら不燃物の仕事をどのような形でどこにどうつくるのかというふうなことにつきましては

次の問題になるわけでございますけれども、基本的には今申し上げたようなことで進んで参つておるわけでございます。ただし、この規約の上におきましては、従前までこのように具体的な項目としてかかけてございませんでしたので、今回につきましてはこの四項目を業務別に明記していきたいということ、それから共同処理する事業をはつきりとここに打ち出したい。それを御承認いただきたいということで今回の規約改正をお願いしたわけでございます。

不燃物の仕事の関係につきましては、はつきり申し上げまして現在までもうすでに計画も進めましたし、それからさらに仕事そのものもある程度進めております。その点につきましては、いろいろお考えのむきもあらうかと思いますが実情はそうでございますので、ひとつ御了承いたしたい。

さらにもう一つ、つけ加えて申し上げますと、市町村圏の費用の中で各市町村の分担金を徴収いたしましたし、そして国庫補助金あるいは起債等を加えまして市町村圏の予算としてこれをまとめまして、そうしてこの予算の中で今申し上げますました四カ所の処理場に併設いたしまして、費用を市町村圏で支出するといふような運びに相なるわけでございます。そのようなことでございますので、その点御了承いたしたいと考えておりますが、以下火葬場、消防につきましては先ほど申し上げましたとおり、まだ細部のな決定を見ておりません。現在検討中でございますので、今後の問題にかかつて参ろうかと思ひますけれども、不燃物につきましては今申し上げたとおりでございます。実情はそうでございますので、ひとつ御了解いたしたい。このように考えるわけでございます。

○ 二三番 (田村源治郎君) 今、伊藤課長がいわれたとおり、これは了承してくれ、議会における私たちは何にもわからないのだ。どういふものをつくる。内容はどういふ状態であつて議会にはじめて通知があつて検討してくれといふならいい。広域市町村圏が計画して一部負担金は市が出す。あとの内容は全然かにもくわからない。なぜそこにつくるなら議会の承認を得てはじめてすべきが当然だろうと思ひますけれども、ただ了承してくれ、これは正しいのだからあらんた方にはもんくいわせないというなら、市がはつきりいいきつてもらうならば私は打ち切りますが、ただ了承してくれということでは引きさがることは何時間たつてもこれは続けたいと思ひます。

○ 助役 (畠山 伝君)

広域市町村圏につきまして私も議員として席をけがしておるわけでございますが、広域市町村圏の事業に対しても、それから各関係町村の機関に対してのことにつきましてたいへん連絡不十分な点があつたことを申しわけないと思うわけでございますが、三、四につきましては御承諾いただいて今後十分連絡を密にして御承認いただいて実施するようにいたしたいと思ひますが、今後広域市町村圏と議会との関係につきまして十分連絡を取りまして、御承認いただいてやるようにいたしたいと思ひますので、ひとつ御了承願ひたいと思ひます。

○ 二二番 (田村源治郎君)

市が正しくやつてくれたならば議会に承認を経るとか、連絡を密にする必要はなからう。今後はいき過ぎの点があるということに考えてくれるならば、人間は落ち度というものはあるけれども、今後十分氣をつけます。注意することをするならばこれにおいて質問を打ち切るけれど、どこでもいいからただ承してくれというなら議員の一人としてはつきり落ち度があると思う。連絡が密でなかつたということについて御答弁をお願いしたい。

○ 助役 (畠山 伝君)

今後十分連絡を密にいたしまして、そのようなことのないように努力いたしたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

○ 九番 (辻田 実君)

田村議員の質問に対して私も全く同感でございます。そこで私は田村議員さんはある程度納得されたようなあれですけども、私はまだ一点だけ非常に疑念に思ひるのでこの点についてお答えをいただきたいと思うわけでございます。

あその現在のごみの処理場を建設するにつしましては、建設当初私も議員として賛成した一人でございまするけども、当時いろいろな地域の視察等も文教委員として回つてだいたいようぶだろうということをやつたわけでございまするけども、あれから六年ですか、七年たつた今日現在の位置に現在のままの焼却炉があることによつてしばしば問題を起こしておるし、現実においてもかなり問題があるというふうにうかがえるわけでございます。

私は、議員をやつていろんな議案にたずさわりましたけれども、現在の焼却炉をやつたということについて私自身失敗

したのではないかというふうに考えております。過去におきますところのビニールから出るところのガスの農作物の被害の問題さらに水田に対する汚物の問題、それから現に今、開発公社があそこに土地の分譲地を求めながらも衛生処理場は関係はないという見通しの上に立つてつくつたにもかかわらず、あそこに衛生処理場があるということが相当原因してあそこに売れない土地があるじやございませんか。開発公社の理事の一員でございますけれども、昨年から今年に引き継ぎされた事項の中で開発公社の土地の買収においてちよつと計算狂いがあつたのはあの土地でもつて、今後あの土地の処理というか、払い下げの問題についてかなり開発公社の中にも意見があるんじゃないか。私は理事の一員として非常に困つたことになつたというふうに考えておつたわけでございます。そういうことは当然市の方たち、今私が申し上げた以外にもしよつちゆう市民相談室に対しても窓口にしてもあそこの処理場の苦情はきていたはずでございます。

ですから、さつき田村さんがいつたように、絶対的に自信の持てるものだつたら私は承認を取らなくてもある程度形式的に取つてもいいと思ふんですけども、今いつたような事例をもつてあそこにあるということとはかなり問題ではないか。今後あそこをほかに移転できるものならば移転したほうがいいんではないかと思つておりまして、私個人の考えですけれども、私の周囲にそういう考えの人も相当おります。規模を縮小してあの焼却炉をまた新しくつくる場合には、もつと館山市の発展計画の上からもうちよつとどこかに考えないと、一つの館山市の発展途上において害といわなくても問題を残しておる所在になつておる。そこにさらにそれを強化するようになかつてもつて不燃物処理場をつくつていく。これはやはり私は田村さんが御心配されたと同様非常に強化する意味で、今までの反省してきたことが絶対的に何年か先に延びるというような心配が相当あるわけでございます。それもやはり田村さんおつしやられましたように、議会に出ればそういう問題が当然論議されたと思う。私はそういう点でもつて論議しなければならぬのではないか。都市計画という意味からしても、そういう点についてはどのように考えておるのか。私のひとりよがりの思い過ごしかそういう点で多く相談にかけられておることがあると思ひます。

不燃物処理施設の設置についての条項についてはすでに工事が始まつておるからとにかく泣いてくれということかも

しませんが、泣いて済むとか、議員が黙認するというものではこれらの問題については処理できないというふうに考
えておりますので、その点について納得のいく御答弁をいただきたいと思ひます。

○ 衛生課長 (牧野喜一君) ただいま御質問の不燃物を処理する施設と、それからまわりに影響することとござい
ますが、そういうことに限つて申しますと、今までそういった機械がないためにあそこが露天がたらがつておりました見
た目がぐあいがある。あるいはどうしてもそういう処理する機械がございませんと炉の中に入つてしまふということ
で燃焼のほうもぐあいがわるい。専門的に申しますと、ガラス等が多く入りますと固まつたフリンカーというものが
出てきまして、燃焼の状態をわるくするというような技術的なものがございまして、私のほうとしましてはそういう施設
圧縮機、破砕機が入つた場合まわりの住民の方々に迷惑は及ぼさないという考え方で参つたような次第でござい
ます。

○ 九番 (辻田 実君) その点についてはわかるんです。わかるんですけども、当時建設するときにはあの熱は常時
六百度とか保つて千二百度ぐらいの温度に炉が燃えてとか、そういう不燃物だとかそういうものは完全に焼いてしま
うということ業者がきて全員協議会の中で説明を聞いたわけですよ。脱硫装置ですか。煙の中に灰は絶対出ない。そう
いうものはないんだ。絶対なんだ。普通の煙よりきれいだということが説明されて絶対だによりぶだと思つてやつて
みれば、ばい煙の問題、その他の問題が現にあるじゃありませんか。ですから、これはこうできちやつたからあまり
いつてもしょうがないし、当時われわれも議員として賛成してとにかくつくらなければならぬからあの場所でもいいだ
ろうということをやつたわけですが、今の話を聞いてみますと確かにこういふふうになつてしまつたから、またこう
してやりたいということでもつて、それがよい失敗のうわめりというようなかつこうになりはしないかというふうに思
うわけです。ですから、私はむしろそういう問題をかかえておるだけにこの問題は今工事しておるから留保できないとい
うかもしれません、そういうことでは済む問題ではないわけでございます。

むしろ、遂に不燃物の処理場だけは今後将来こつちにつくつたらいだらうという場所に都市計画の中で総合的に考
えて、そこの地域に先行的につくつておいてこつちに全面的に移すというくらいにやつてもいいんではないか。また、

逆にそういう施設をしてしまえば炉のほりが耐久年度が過ぎてかえるときに今の不燃物処理施設があるからやつぱりそこにつくらなければだめなんだという環境になると、いつになつてもきりがつかないというふうに考えられるわけでございまして、この点についてはもうすでに平行線たどつてしまいましたけれども、考える必要があるのではないかと。市長さん、助役さんそこらへんの点について最初に論議されているものならいいんですけども、できかかっているというところでそれから、議会の軽視云々という問題については田村さんがいいましたから削除しますけども、そういうものを含んでおるだけに議会軽視云々という事務的のものでは済まない。そういう問題についてもつといる都市計画審議委員とか、そういうものから相談して総合的にあと何年ぐらいやむを得ないんだからこういう形でもつて先ほどもいねれましたように、確保たる自信をもつてやられるものであるならば、われわれもある程度協力していきたいと思ひますからその点統一の見解を市長を含めてお願いしたいと思います。

○議長 (吉田勇治郎君) 九番議員さんの答弁を保留して暫時休憩いたします。

午後二時

休憩

午後二時四十五分

再開

○議長 (吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

この際、御報告申し上げます。決算審査特別委員会の正副委員長を互選の結果、委員長に西村真次君、副委員長に辻田実君がそれぞれ当選いたしましたので報告いたします。

休憩前の答弁保留に対しまして市長の答弁を求めます。

○市長 (本間 譲君) 先ほどは田村議員さん並びに辻田議員さんにいろいろ御迷惑をおかけしたことをまずおわびをいたしたいと思ひます。不燃物の位置の問題並びに火葬場も新設を予定されておりますから、それらの問題につきまして今後委員会を開きまして御検討を願ふことにいたしたいと存じますので御了承願ひたいと思ひます。

それから、本日御検討願つております規約の改正につきましてぜひ御了承をたまわりたいと存ずる次第でございます。

○ 一三番 (五十嵐 昇君) 二二番議員のほうから火葬場の施設につきまして御質問があつたわけでございますが、その火葬場の施設の位置でありますとか敷地の問題、建物の問題ことに建物等につきましては構造の問題これがいわゆる鉄筋コンクリートにするのか、あるいは木造にするのか、あるいは敷地等にいたしましたも、これをどのぐらいの規模に拡張するのか。現在非常に館山市の火葬場といましては狭隘をきわめておる。待合い室等もあの坪数では二組三組の待合い室としては非常に狭くて市民が非常に不便を感じておるといふようなことも考えられるのでございます。したがしまして、大体の霊柩車とかあるいは祭壇とか、運搬とか、その他のことにつきましては先ほど担当課長から御説明がありまして大略わかつたわけでございますけれども、敷地をどうするのか。あるいは建物あるいは位置の問題、なおそれに引き続きまして裏山の開発の問題、たとえば裏山を開発いたしましたして公園墓地的な計画が市にあるかないかということも御説明できましたら簡単でけっこうでございますから御説明いただきたい。

○ 市長 (本間 譲君) 五十嵐議員さんの御質問に対しまして申し上げたいと存じますが、火葬場は現在の個所は厚生省で規定するには不適当なことになるわけでして、新しくする場合にはその基準にのつとつたところをやらなければならぬ。こういうことでございますから、あそこでないところを物色しようとするわけでございます。これからいろいろ検討して参るわけですが、もう少しいろんなことが判然としましたならば、やはり関係委員会におはかりして位置とかいろんなことについて申し上げたいと思ひますが、まだその段階でございせんから御了承願ひたいと思ひます。

○ 一三番 (五十嵐 昇君) 今、市長さんの御説明でまだ未定であるということでございますので、その点はわかるわけでございますが、ともすると火葬場の設置等につきましては、地元住民とのトラブル等が当然起こつて参りますいろいろな点等が勘案されますので、その点地域住民と事前に密接な連絡をお持ちいただきまして、そういう摩擦が起これらぬように館山市百年の計をお立ていただきまして、りつばな火葬場を新設していただきたいと存じます。

位置等はそういうことでございますが、そのほか建物の問題あるいはその構造の問題、敷地の問題、それに駐車場も必要であろうし、また車庫のようなものも必要であろうし、また用務員の宿舍等も現在一人でやつておられますけれど

も、広域行政という面から考えますと、非常に広範囲になつて参りますので、そういう点を十二分に勘案されまして、特に住民との密接な関連のもとに摩擦の起こらぬようにつばな施設をつくつていただきたい。こう存じまして私の質問を終わります。以上。

○議長 (吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。御異議なしと認めます。よつて委員会の付託は省略することに決しました。本案に対する討論を行ないます。討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採決

○議長 (吉田勇治郎君) 採決いたします。本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

議案の上程

○議長 (吉田勇治郎君) 日程第四、議案第六十九号字の区域及び名称の変更についてを議題といたします。

議案第六十九号 字の区域及び名称の変更について

○議長 (吉田勇治郎君) 御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○ 議長 (吉田勇治郎君) 本案を委員会付託並びに討論省略直ちに採決するに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。

採 決

○ 議長 (吉田勇治郎君) 採決いたします。本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (吉田勇治郎君) 日程第五、議案第七十号昭和四十六年度館山市一般会計補正予算第三号を議題といたします。

議案第七十号 昭和四十六年度館山市一般会計補正予算(第三号)

質 疑 応 答

○ 議長 (吉田勇治郎君) 御質疑願います。

○ 九番 (辻田 実君) 三点について御質問いたします。第一点は、明細書の七ページ十二款の一目六の教育寄付金十萬円の収入でございます。これにつきましては支出の項で一四ページの負担金北条小学校水道工事負担金というのがあるわけでございますけれども、この関連についてちよつと質問いたしたいと思ひます。房州水道のほうから十萬の寄付をいただいで非常にけつこうなことだと思ひます。そこで、その内容について関連して伺つておきたいんですが、決算書の中におきまして一般会計の収入の寄付金の中に水道寄付金六百三萬円が計上されております。この内容はよくわ

からないんですけども、水道寄付金が六百万あるわけでございますので、市の水道についてもこうした工事、その他について寄付金があるんじゃないかと思うわけでございますけれども、ここに計上されておるところの寄付金というのは本工事が一四ページにございますように三十五万かつてあるわけでございますけれども、そのうち市では寄付金ということでもつてその他の何らかの形で取られると思うんですが、それともそういう類似のものか。それとも工事そのものが三十五万かつて全く別に寄付ということ、自主的ということばがはりますけれども、自主的に出されてきたものか。因果関係は全くないものかどうか。ちよつとこの点を第一点としてお伺いしたい。けちを、もんくをつけるわけではございませんけれども、よろしくお願いしたいと思います。

第二番目が、一一ページ六款の十三節委託料でございますけれども、自然休養村計画委託料三十万円についてお伺いをいたしたいと思うわけでございます。この件については、目的としては最近のレジャー産業の発展に伴つてそして自然保護、そうして安定的生産の確保という柱に基いて都会の人たちに農漁村の理解を深めるということがこの骨子になつておるといふことであるわけでございます。そこでもつて、私は自然休養村計画委託料についてこれが計画書で三十万円でございますから、今後これについて相当な補助金、その他もつてくるんではないかというふうに考えられるわけでございますけれども、その場合自然を保護していくということについて私は賛成でございます。そこで、どの範囲にどのような形でもつてやつていくか。たとえば、のちほど議題になると思いますけれども、ヨットハーバーについてもつくるとなると、あそこの海岸をこわしてしまふ。コンクリートでつくるわけですから、そういうものについてもこの自然休養村の中で考えられるのかどうか。この指定を受けると自然をこわす大きいレジャーセンターというものはある程度チェックしていくという方向が出てくるのか。チェックしていく方向が出てくれば私はけっこうだと思ひますが、本来の効力がどの程度まで見込まれるのか。まだわからなければわからないでけつこうですが、そこについての見直し、先般県の農政課長にこのことについてお話し伺つたわけでございますけれども、その中でどの程度やつたらいいかわからないけれども、しかしながら休養村といふことで自然を保護するといふことで、これから実施の段階でむずかしくなる

と思いますけれども、その点について市ではどのように理解しておるのか。お伺いしたいと思います。

三番目に、一二ページ商工費の十三節委託料三百六十万これにつきましては、南房地域花卉栽培委託金でございますけれども、この委託内容について詳しい説明がなかつたわけでございます。花としてはあそこの道路沿線においてポピーだとか、菜の花だとか四季のものを植えていく。マーガレット、ポピー、ストック夏はカンナとか、カンナの球根は三万個きておるといふことは伺いましたけれども、これらの収穫物の処理は農家が独自にできるものかどうか。委託の内容は全く委託して栽培して全く観光用に付するのか。これに便乗して花やなんかでもうけるとか。農家の利益として得られるかどうか。そこらへんのところが不明確であつたのでこれが農家の生産に役立てば非常にけつこうだと思ひますがそこらへんが逆にこれをやつたために花を植えつけられないということになるとマイナスの面もあると考へられますので、そこらへんのきめ手があいまいだつたものですから、その点について説明願ひたいと思ひます。以上三点について御質問いたしたいと思ひます。

○ 教育委員会庶務課長 (汐崎政光君) 最初の御質問の七ページ六節教育寄付金と一四ページにあります負担金補助及び交付金の関係について申し上げます。負担金としまして三十五万おさめるための補正、これは給水装置の新設工事者はその水道メーターの口径の大きさに応じまして負担金を納入しなければならぬという会社の定款があるわけでございます。その定款に従つておさめるものはおさめていたきたい。こういった要求からこの負担金の請求が出てゐるわけでございます。しかし、一方会社側としましては、特に学校施設でありますので、割引するということは考へられない。そのかわり教育費の何かに使つていただきたいといつた趣旨からこの十萬円の寄付の申し出があつたわけでございます。

○ 農産課長 (石井 謀君) 一一ページの十三節委託料の三十萬円の御質問に対しましてお答え申し上げます。

これは平砂浦を中心といたしまして西岬、神戸、富崎の地域を自然休養村ということで計画地域になつておるわけでございますが、この中で私どもが考へておりますものについては、あそこの洲の崎から神戸に至る線の山の開発要する

にあの中に遊歩道を委託業務として設置いたしましたので、それに付帯いたしますところの花木山の造成とか、花、果樹園の造成、果実のもぎ取り園とかそういうことを考えておるわけでございます。あくまでもこれは私どものプランでございます。そういうような見地からいろいろ地元の方々とよくひざをまじえまして話し合ひまして、その計画のもとにコンサルタントによる懇談をお願いしようというようなことで三十万円を計上させていただいたわけでございます。

○ 商工観光課長 (鈴木 力君) 南房地域花卉植栽事業委託金の三百六十万円につきましてその委託内容の概要につきましてお答え申し上げます。この事業につきましては、県が事業主体となりまして館山市との契約のもとにさらに市と西岬の花卉組合との話し合い委託をお願いいたしましたして実施するわけでございます。

事業内容といたしましては、まず対象地域でございますが、現在話し合いによります造成いたします地域といたしましては、洲の崎から伊戸までの延長大体二・五キロメートルの区間いわゆるフラワーズラインぞいに栽培、水田約一〇〇アールを予定しておるわけでございます。そこに冬から春先のものにつきましては、一疋花卉組合のほうに植栽をお願いいたしましたので、大体前半期二月十日頃までに切り花として出荷していただきます。後半期の二月十一日以降大体五月下旬頃までの間は切り花として出荷せず採取は行なわないで観光用に供していただく。こういうようなことでございますので、したがってある程度栽培に対しまして補償的な補償費というような考え方のもとに一疋生産者に対してまして支払います。こういう構想でございます。以上でございます。

○ 水道課長 (大嶋重義君) 第一問の水道の加入工事の負担金に関連いたしましたので、市の関係について御質問があつたわけでございますけれども、その点についてお答え申し上げます。

市の場合でございますが、この寄付金を取る場合には新設の場合と、それから既設地域で新たに水道に加入する場合の両方の場合で取っております。特に簡易水道事業の新設工事を行なう場合にはこれは国、県の補助事業でございますので、この財源につきまして自己財源を持つてゐるような場合には補助金の算定におきましてこれがその分だけ除かれるということがございますので、こうした新設工事の場合は一疋加入者から一般会計に寄付の形でこの加入負担金実質

的には加入負担金でございますが、受け入れていただきまして、一般会計から繰り出すという形で処理いたしております。そういったことで先ほど御指摘の六百万の水道寄付金ということでございましたが、そういう性質のものでございます。なお、既設地帯の水道加入の場合におきましては、この管の口径によりましてそれぞれ段階別で取っておりますが、一般の場合は一三ミリの場合三万円に実際の給水装置工事費を含めたものが全体の加入者が出す負担金となるわけでございます。終ります。

○ 九番 (辻田 実君) わかりました。ただ一点こう理解して、水道の問題については市の寄付金の徴収の計算方法ですが、因果関係とこつちとは別のようにうかがえるわけでございますけれども、その計算に基いたものではなくてあくまでもさつき庶務課長が話したようなものだということでもいいわけですね。違うんでしたら答弁いただきたいと思いますが、それでよろしいかどうか。一言お答え願いたいということと。

南房の花井栽培事業委託金ですが、内容はわかりました。そこで、一言でけっこうなんですが、なにか三月から切り花として売つたものは補償的にやるといふうなことをいつたんですが、自分で売つたり買つたりでなくて、買つたものは一時市のほうで買うんですかというのが一番聞きたいことで、内容は一町歩四団地に分けてやるといふのはわかるけれども、やつてる人は自分でやつただけであとは残つて観光用に供するのか。今の話を聞くと金は市なり、県にもらつてそこから補助金的に補償的に出すということになる。そこらへんの点はどうなのか。またあとで聞かれた場合あれですから、自分かつてに売つて、自分かつてにポケットに入れられるのか。一切売れたものは一本の花の代金でもどつかに管理しておいて補償的にどつかで出すのか。その関係が聞きたいんですけども、教えていただきたいと思ひます。

○ 教育委員会庶務課長 (汐崎政光君) ただいまの件、辻田議員の御理解のとおりでございます。

○ 商工観光課長 (鈴木 力君) お答え申し上げますが、委託料につきましては、一応市のほうから西岬の花井組合に對しまして事業委託料としてお払いするわけでございますが、あくまでも実績に基づきまして算定するということで

ございました、個々の生産者につきましては先ほど申し上げましたとおり前半期二月十日前後までの間は切り花として自由に出荷していただく。それ以後につきましては、観光用に供していただくということで採取は行なわないということでございます。

○ 九番 (辻田 実君) 観光用に供してもあとの処分はまた自分でやるということで、その残つたものは自分であとで自主的にまかされるということでもいいわけですか。

○ 商工観光課長 (鈴木 力君) そのとおりでございます。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○ 議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案を委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。よつて委員会付託を省略することに決定いたしました。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。

採 決

○ 議長 (吉田勇治郎君) 採決いたします。本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (吉田勇治郎君) 日程第六、議案第七十一号、議案第七十二号を議題といたします。

議案第七十一号 昭和四十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）

議案第七十二号 昭和四十六年度館山市休養施設特別会計補正予算（第一号）

○ 議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後三時十三分 休 憩

午後三時五十分 再 開

○ 議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

質 疑 応 答

○ 一九番（島野茂樹郎君） 二四ページ工事請負費の十万円についてお伺いしておきたいんですけど、この工事は単に下水を管を取りつけてそのまま海に流すための下水の管の取りつけ工事である。こういうふうに理解してよろしいかどうか。まずお聞きたいと思います。

○ 商工観光課長（鈴木 力君） お答え申し上げます。鳩山荘の浄化槽につきましては、本館、別館ともそれぞれ一カ所に浄化槽が取りつけ装置されておるわけですが、手洗い所はもちろん厨房あるいは洗面所、ふる場から流れます下水につきましては、それぞれ浄化槽を経ましてる過されましたものがマンホールを経まして海岸に流出するわけでございます。今回お願いいたしました下水管取りつけ工事につきましては、一応ろ過されました下水が海岸へ流れるわけでございますが、海岸のかつて泉で行ないました公園整備事業として行ないました護岸の部分に流出しておるということで、非常に外見上みばがわるいという御指摘もございまして、この際それをさらに整備いたしたいというふうなことで下水管の取りつけ工事を行ないたいという趣旨のものでございます。

○ 一九番（島野茂樹郎君） 工事の内容はわかつたんですが、浄化槽を経て海に入っているのだ。こういう説明ですけども、あの近所の人たちの話を聞きますと、あの海岸から取れる魚がどぶくさくて食べられないというような声を

聞くわけですけれども、これはもちろん鳩山荘から出る下水のためであるというわけにはいかないと思います。一軒のどぶ、下水だけで魚までがそうくさくなるというそれほどではないと思いますが、しかし少なくともそういうような声のある中で市の施設ですからここから流す下水ぐらいいは、いわば処理をしたきれいな水が流れるような、いわばあの辺の民宿あるいは保養所、企業の保養所がたくさんありますが、そういうようなところの模範になるような施設を、処理をすべきではないか。こういうふうに考えるわけですが、この十万円ではおそらくそういうことはできないと思いますけれども、将来に向つてそういう設備をおすつもりがあるか、お聞きしておきたいと思います。

○ 商工観光課長 (鈴木 力君) ただいま申しました浄化槽につきましては、毎年清掃整備をいたしておるわけですが、本年につきましても近く清掃整備をいたしまして、その際にさらに専門家のほうに適正かどうかということをはつきりと点検をお願いいたしまして、その結果によりましてまた改善をしていきたい。そして地元の方に御迷惑のかからないようなことで善処いたしたい。このように考えておるわけでございます。

○ 一九番 (島野茂樹郎君) ぜひ今、課長さんおつしやつたような方向で少なくとも地元の人が鳩山荘から出る下水が魚をくさくしているのだという声が、あそこではあの付近では施設として一番大きいわけですから、少なくとも市の施設として批判を受けないような設備をなるべく早くつくつていただくことをお願いいたしまして終りたいと思います。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 二〇ページの中の国庫支出金の返納金の問題ですが、決算報告で課長さんの答弁では事務費の当然国が持つ八百六十二万円の内容が出てないわけですが、これは決算報告の中で課長さんが答えたわけですがこういう国の出す分が出されてないということと今までも相当この点について国に要求していると思うんですが、国庫支出金の返納というようなこういう時期に、さらにこの超過負担金を国に請求するつもりなのかどうか。その点一つお伺いしたいと思います。

○ 保険課長 (網島憲治君) 事務費の国庫負担のあり方につきましては、現行の法律の上からいいますと、私どもがこうありたいと思う方向と若干違つておりますので、これはもちろん法律の改正をしなければいけないわけでございま

して、われわれ年ごとに市長会あるいは連合会あるいは全国の国保主管課長会議等もう十年にわたつて要求は続けておりますが、まだそのような目的は達成されておりません。やはり国庫負担の扱いとしては当然国が持つというふうな法律の規定がある以上、そういう方向に努力いたしております。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 努力していることは認めますけれども、これが毎年毎年そのままになつていてその分が被保険者にしわ寄せされて、国保税の値上げというふうなことになるわけですから、ただいまの課長さんのおことばでは努力しているということ、一そう努力されるように希望いたしましたして終ります。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○ 議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案を委員会付託並びに討論省略することに御異議ございませんか。御異議なしと認めます。

採決

○ 議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

日程の追加

○ 議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。ただいま議案第七十三号が提出されました。この際、本議案を日程に追加し、議題として本日はこれが説明を行ないたいと思ひます。これに御異議ございませんか。——御異議なしと

認めます。よつて日程は追加されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 議案第七十三号工事請負契約の締結についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。議案の配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認めます。

（書記朗読）

議案第七十三号 工事請負契約の締結について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 本案の説明を求めます。

○庶務課長（小倉澄男君） ただいま提案されました議案第七十三号につきまして御説明申し上げます。

本工事は、館山市の条例の規定によりまして、館山市立豊房小学校の改築工事でございますが、先般市内の業者六業者、ここにあります石井工務店、計工務店、渡辺建設株式会社、富士土建株式会社、荒井建設株式会社、館山建設業協同組合の六社を指名いたしまして、指名競争入札の方法によりまして本日入札を実施いたしましたところ、再度並びに再度入札を実施いたしました方が、予定の価格に達しません。落札いたさなかつたわけでございます。そこで、地方自治法の施行令第六十七条の二にありますが規定によりまして、最低者である石井工務店に見積り書を徴しました結果、六千八百八十万円で見積り書が提案されましたので、石井工務店を相手といたしまして随意契約を結びたいということでございます。議会の承認が得られましたならば、石井工務店と六千八百八十万円をもちまして契約を締結したいということでございます。よろしく御審議願います。

延

会

午後四時三分

延

会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて延会いたします。次会は明二十二日から二十七日まで委員会審査のため休会とし、九月二十八日午前十時開会といたします。その議事は認定第一号乃至第七号昭和四十五年度決算にかかわる決算審査特別委員会委員長の経過並びに結果の報告、討論、採決、追加議案及び請願書の審議といたします。長時間ごろうさまでございました。

○ 本日の会議に付した事件

一、認定第一号乃至認定第七号、議案第六十八号乃至議案第七十二号

一、報告第四号

一、議案第七十~~三~~号

